

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

contents

皇后盃第46回全日本女子弓道選手権大会
日本武道学会第46回大会・第1回国際武道会議
国民体育大会（弓道・柔道・剣道・銃剣道）
全日本学生柔道体重別選手権大会（男子・女子）
全日本実業団剣道大会

糸東流空手道世界選手権大会
鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会
全国少林寺拳法指導者研修会

天皇盃第64回全日本男子弓道選手権大会



優勝＝滝上三郎教士七段（埼玉）

日本武道学会第46回大会 第1回国際武道会議

初の国際武道会議を開催

3日間で計120の演題を発表



本部企画・シンポジウムの様子

日本武道学会第46回大会・第1回国際武道会議は、9月10日～12日の3日間、筑波大学で開催された。今回は初の国際武道会議開催となり、参加総数311名のうち、20名が外国人武道研究者として参加した。また、例年の一般研究発表（人文・社会科学系、自然科学系、武道指導法系、ポスター発表）に加えて、国際セッションとして英語のみの研究発表も行われた。計120題が演題として上がり（全演題・発表者は170頁～173頁に記載）、各武道種目の研究者による発表や討議が活発になされた。

そのほか、鹿島神宮の鹿島則良宮司による記念講演、シンポジウム、各専門分科会の企画が開かれた。

発表時もちろん、休憩時間にも英語が飛び交い、プログラムのレジュメも全て英訳付きになるなど、研究面でも武道の国際化が進んでいることを示す大会となった。

一般研究発表（全目）

一般研究発表は人文・社会科学系、自然科学系、武道指導法系、国際セッション（それぞれ口頭発表12分、質疑応答3分）が全日、ポスター発表が2、3日目に行われた。

人文・社会科学系は計18題で、剣術の歴史や伝書、神事と薙刀の関係、手裏剣術や柔術活法などに関する研究発表が行われた。また、柔道の国際化や、韓国剣道についての発表もなされた。

自然科学系は計30題で、柔道・剣道競技の動作にまつわる速度・強度、

稽古における人体への影響等に関する研究発表が主に行われた。

武道指導法系は計29題で、柔道・剣道の初心者への対応や、空手道指導時の言葉、合気道の学習成果などをテーマにした発表が行われた。また、中学校の武道授業に関する発表も12題あり、研究者の関心の高さが窺われた。

今回初めて実施された国際セッションは計29題で、そのうち、14題が外国人研究者による発表となった。発表は全て英語で行われ、柔術・柔道に関するものが12題と最も多く、次いで剣道と空手道が4題ずつ、な



鹿島則良鹿島神宮宮司

「JAPAN——神とともに歩んできた道」鹿島神宮・鹿島則良宮司
初日の午後4時から行われた。
演者である鹿島則良宮司は、まず、神道について、今という歴史の中で生かされていることに感謝し、次の

■記念講演（初日）

ぎなたが2題、弓道が1題、その他が6題となった。柔道・剣道以外の武道種目をテーマに扱っているのがみられるのが特徴で、国際的な比較分析を行ったものも多かった。ポスター発表は計14題で、今回は全て英語で示されるなど、国際的な取組が意識された形で進められた。柔道・剣道・空手道・弓道の研究成果が貼り出され、興味を持って集まった会員に、発表者はデータなどを示しつつ、解説にあたった。

世代へよい形で引き継いでいくものと語った。

次に、神道を語るうえで欠かせないのが神話であるとし、古事記、日本書紀、常陸国風土記を紹介しながら、鹿島神社にまつわる国譲り神話、神武東征神話について触れた。特に、鹿島の神である武甕槌大神（たけみかづちのおおかみ）の活躍（ふつのみたまのつるぎ）、師・靈劍の靈力、常陸国風土記に鹿島神宮に伝わる直刀（国宝）の由来が記されていることを語った。

他にも、鹿島にまつわる話として、関連する武術流派、能の演目「常陸帯」（ひたちろおび）、地震除けの「鯨絵」（くじらえ）を紹介した。とりわけ、鹿島が古くから武道人の聖地として知られ、塚原卜傳を流祖とする鹿島新當流や、鹿島神傳直心影流などが今でも残っていると述べた。また、常陸帯は縁結びの話で、鹿島の神が白蛇（いじくへ）となつて古より国を守ってきたこと、鯨絵は、安政の大地震発生に伴い江戸時代に流行した絵で、地震除けの神として知られる鹿島の神が鯨を押さえているものであることが語られた。

地震については、東日本大震災に關することに話が移り、震災一週間前に鹿島神宮に一番近い海岸で、鯨



熱心に聴講する参加者

が52頭上がったこと、震災時に鳥居が神を守るかのように倒れたこと、国譲り神話では敵同士だった諏訪大明神の1m30cmもあるお札が、鹿島の海岸に流れ着いたことなど、不思議な出来事が続いたと述べた。

最後に、我々は先祖がいたことによつて生かされ、歴史の中で生かされていることに感謝してほしい。そして、学んだことを次の世代に伝えていくという大切な役目があることを考えて、武道に励んでほしいと述べ、約1時間の講演を締めくくった。

■本部企画・シンポジウム（2日目）

シンポジウム「Budôにおける実践と知の対話」は、午後1時より始まり、山口香氏（筑波大学准教授）と、アレック・ベネット氏（関西大学准教授）が総合司会を務めた。

シンポジウムは、時間を区切つて3つのセッション（実践としてのBudô」「学問としてのBudô」「討論）で行われた。

●セッション1

「実践としてのBudô」

阿部哲史氏（ハンガリーNPO武道文化フォーラム会長）とユルゲン・クリンガー氏（イギリス・バース大学柔道部監督）が、報告を行った。

▽報告①

阿部哲史氏「ヨーロッパにおける武道の変容」

1992年より、ハンガリーを拠点として武道の実践や研究を続けてきた経験をもとに報告を行った。特に、ハンガリーで盛んな「サボー武術会」を例に挙げて「新興武道」についての説明をした。

新興武道とは、9種の現代武道の



ヴォイチェフ J. シナルスキー氏



春日井淳夫氏



ユルゲン・クリンガー氏



阿部哲史氏

枠に入らず、武道と格闘技の区別も曖昧である一方、名称や技術体系など、日本武道との関連を有しているものと説明。サボー武術会はこれに当てはまり、居合のようなことも行うが、左利きの人が刀を右に差すなど、日本の武道修業者からみれば、偽物に見えるだろうと述べた。

しかし、それをわかつていながら続ける修業者もいて、現在では1千名ほどの会員があり、無視できない数になっているとした。また、普及の背景には、ハンガリー国民のナシヨナリズムが影響しているのではないかと推論した。

最後に、海外に普及した武道が、その国の文化との摩擦や融合を経て新興武道となることは、ハンガリー以外でもみられると説明。これらは、武道文化を理解する際、深く関係してくるのではないかとした。

▽報告②

ユルゲン・クリンガー氏「柔道——教育制度が格闘技からイギリスで働くドイツ人コーチの視点から——」

世界における柔道の課題は、会員数の獲得であるとし、現状はオリンピックを頂点に格闘技としての色が

濃くなっているが、教育面にも目を向ける必要があると訴えた。例えば、ドイツの柔道選手は、一定の年齢になると目的を見失い、やめてしまう者もいるが、教育面を理解していれば、一生続けられる武道であることがわかるとした。

結論として、格闘技と教育という2つの側面を踏まえてコーチ育成などを行えば、会員数の確保という課題にも対処できると述べた。

▽参加者の意見

セッションの終わりに、質疑応答の時間が設けられ、聴講者から次の意見があった。

「柔道は競技スポーツになったことで破壊されてしまったと思う。また、オリンピック種目になったことで勝利至上主義の考え方が広がり、本質を失ってしまったと考える」。

これに対し、クリンガー氏は「同感である。マスコミへの取り上げられ方を見ると格闘技としての面は否定できないが、教育面も重視して、バランス良く行う必要がある」と述べた。

また、阿部氏は「破壊という言葉が気になった。どの武道も競技のお

かげで広まった部分があり、現実的な問題として受け入れなければならないだろう」と答えた。

●セッション2

「学問としてのBudō」

自然科学研究の春日井淳夫氏（明治大学教授）と、人文科学研究のヴォイチェフ・J・シナルスキー氏（ポーランド・ジェチエフ大学教授）が、報告を行った。

▽報告①

春日井淳夫氏「現場を科学し、実践に活かす」研究」

現場に活かされる武道研究が少ないことの指摘と、実践・指導の現場の状況を把握し十分な関連性を持つために何が必要かについて論を展開した。また、講道館柔道医事研究会に始まる自然科学研究組織の歴史の変遷なども紹介した。

まとめとして、これからの柔道自然科学研究について、「柔道の実践・指導者と研究者が、それぞれの考え方を理解し、積極的にコミュニケーションをとって、連携しながら研究を進める」「経験豊富な指導者の持つ『経験知』をいかに研究へ取り入

れるかを検討し、チャレンジしていく」ことを提言した。

▽報告②

ヴォイチエフ・J・シナルスキー氏「武道研究における人文科学問題と方法論」

はじめに、人文科学の研究方法について、19世紀は還元主義や、専門主義、部分分析が先行されており、20世紀になって、全体的に系統だった分析がなされるようになったと述べた。そして、先行の研究を紹介しつつ、知識を統合して意見を調査定義するアプローチ方法の重要性を語った。

まために、武道の人文科学研究では、定性的研究方法により明らかにすることが多く、実践をしつかりと考慮し、還元主義に陥らないようにすることが重要であり、それが各武道に共通する科学的論理の創造に繋がると結論づけた。

●セッション3

始めに聴講者の一人として参加していた大韓武道学会のフォン・テ・ドン会長が紹介され、韓国の武道研

究事情を説明した。

「韓国でも指導者と研究者のギャップが問題になったが、今は指導者研修会を開くなどして、その成果を現場に反映し協力体制をつくっている。また、政府は2008年頃に武道振興法案を成立させている。

武道学が発展するためには、自然科学と人文科学の融合が必要だと思う。大韓武道学会の会長として、幅広い問題を解決していきたい」

その後、これまでの報告内容を踏まえて、聴講者とパネリストによる討論の時間が設けられた。

Q「柔道の『教育と競技』のバランスについて」

A「よい教育を受けつつ、実践に繋げることが必要」(クリンガー氏)

Q「『武道』という言葉の概念をどう捉えるのか」

A「日本の伝統を汲むものだけなのか、教育的な要素がある格闘技全てを武道とするのかは、難しい問題」(シナルスキー氏)

Q「ハンガリーの新興武道は、教育とどれだけ関係があるのか」

A「教育への影響力は持っていない。その反面、ハンガリーでは教育的側

面を備えた武道を子供に普及しようとする人々がいる」(阿部氏)

Q「武道の護身について、生涯教育の観点でどのように捉えているか」

A「格闘の場面において具体的にどうすればいいのかがわかれば安心すると思う」(クリンガー氏)

A「安全に身を処することは重要。柔道では、初心者指導は自分の体を守るところから始める」(春日井氏)



全てのセッションを終え、百鬼史訓^{なきりかみ}日本武道学会会長より、各パネリスト及びフォン氏に記念品が贈呈された。続いて、百鬼会長が「このシンポジウムのテーマのような大きな課題について一つの方向性を示し、社会に発信する必要性がある」と述べ、4時間にわたって行われたシンポジウムを締めくくった。

■武道学会総会(最終日)

最終日に平成25年度日本武道学会総会が行われた。開会に先立ち、優秀論文賞の発表が行われ、藤田英二氏(鹿屋体育大)、有田祐二氏(筑波大)、斎藤一雄氏(日本体育大)



優秀論文賞表彰Ⅱ
受賞した筑波大・有田祐二氏(右)と
百鬼史訓武道学会会長

が表彰された。

次に、百鬼会長が「武道を取り巻く社会的環境や国際事情を考え、また、文部科学省がグローバル人材の輩出をテーマにしていることなどから、第1回の国際会議開催に至りました。先生方の研究発展に繋がることを願います」と挨拶した。

その後、事業報告・計画、専門分科会(障害者武道)の新設など、8つの議案が審議され、承認・可決された。また、次回の大会は平成26年9月10日~11日に広島県の福山市立大学で行われることが決まった。

■専門分科会（最終日）

最終日、総会の後に外国人参加者に向けた武道デモンストレーションを行い、その後、各専門分科会が開かれた。

●柔道専門分科会

「形について」をテーマに、講演が開かれた。

はじめに、村田直樹氏（講道館）が「古式の形」の一部の動きについて、どのような理合が最もふさわしいか、自身の見解を述べた。そして、それぞれの形には狙いがあり、理合を極めて、乱取に生かしていくことで、全てが相俟^{あいま}って嘉納治五郎師範が考えた講道館柔道になっているのではないかとまとめた。

次に、カドー・イブ氏（トゥールーズ・ル・ミライユ大）がフランスでの形の普及について講演し、フランスでは五の形と精力善用国民体育が実践されず、代わりに「後の先の形」があることを紹介。理由を探るため、その歴史を辿り、形が現在の昇段試験に必要であることと関係があるのではないかと結論を述べた。

武道デモンストレーション



なぎなた（天道流薙刀術の形）

●剣道専門分科会

「鹿島新當流剣術のわざをみる」と題して、吉川常隆鹿島新當流剣術第六十五代宗家を講師に招き、鹿島新當流剣術の演武、講義、ワークショップを行った。

初めに学会企画の武道演武会に合わせて、全体演武として面ノ太刀十二箇条を披露。続いてその歴史や特



空手道（形・セイサン）



剣道（鹿島新當流剣術の形）



柔道（投の形）



弓道（腰矢組弓）



障害者武道（柔道の受け身）

微、構え、技法の講義がなされた。

次に、鹿島新當流剣術の中極意である七条ノ太刀と霞ノ太刀、間ノ太刀、大極意の高上奥位十箇ノ太刀、外之物太刀が吉川宗家の解説とともに披露された。

その後、質疑応答がなされ、参加者の様々な質問に、吉川宗家は丁寧に答えた。

●弓道専門分科会

分科会総会が開かれ、事業報告、決算、事業計画、予算について審議し、承認・可決された。

●空手道専門分科会

まず、「世界の空手道事情」をテーマに、ヴォイチエフ・J・シナルスキー氏（ジェチエフ大学教授）と浜崎鈴子氏（米国オレンジ郡空手道場）が、それぞれヨーロッパとアメリカの空手事情を紹介した。

シナルスキー氏は、長期的な調査から、ヨーロッパでは現在、スポーツなどと融合しながら新たな武道が出来ることなどを紹介した。浜崎氏は、アメリカ人が持つ空手のイメージや普及形態を説明し、国際

化においては、空手道が生涯にわたる技と人間性を磨く武道であることを伝えたいとした。

次に、アベル・フイゲイレド氏（ビゼウ工科大学）が、「エクササイズから長期プランにまでわたる多面的トレーニングの応用と要因」として、体力の向上ばかりでなく、精神力の鍛錬や、戦術の研究が空手道に必要であることを強調した。

●なぎなた専門分科会

「競技化した『なぎなた』を武道『薙刀』の視座から問う」として、福田啓子氏（皇學館大）が技術的側面、制度的側面、種目名の表記についてのを絞って、講演を行った。

特に、技術的側面については、競技の歴史に触れながら、国体が勝利至上主義になっていることを指摘した。また、種目名の表記「なぎなた」は昭和39年に連盟の理事会で決まったもので、戦前は漢字の「薙刀」だった。戦後、学校に採択するには漢字では戦前のイメージが強いという文部省のアドバイスを受けての変更だったと説明。今後は、漢字を使うことも考慮していきたいとした。

最後に、歴史の中で、ルール等を見直しつつ、本来のよさを正しく発展させていくのが我々の課題であるとまとめた。

●障害者武道専門分科会

本年度から既存の専門分科会に加えて、新たに障害者武道専門分科会が発足した。発起人は中島秋氏（国士舘大）。発起会員は松井完太郎事務局長（国際武道大）をはじめ、33名に上った。

初めて行われた専門分科会では、社会福祉法人わらしべ会在籍の障害を抱えた会員と筑波大柔道部の学生が柔道の寝技の乱取りを行った。

また、わらしべ会の丸山正雄氏は「新しい可能性を求める活動Ⅱ（柔道の実践）について」と題して、創設者村井正直がわらしべ会を開設した経緯や柔道療育（療養＋教育）の導入の経緯、障害者に対する柔道療育の有効性、新しい障害者武道の可能性などについて発表した。

その後、総会が行われ、専門分科会の活動方針や会則について審議し、承認された。また、会員の自己紹介などが行われた。

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

Edited by Nippon Budokan Edited and Translated by Alexander Bennett

This book introduces the long history of the Japanese martial arts, and includes a comprehensive timeline, glossary of terms, and an index. The federations representing the arts of Jūdō, Kendō, Kyūdō, Sumō, Karatedō, Aikidō, Shorinji Kempo, Naginata, and Jūkendō, as well as various other Budō-related societies and experts contributed to the content. A must have for all martial arts enthusiasts.

B5, Bound, DVD included

Retail: Bunkasha International Corporation
http://www.kendo-world.com E-mail: info@kendo-world.com
ご注文は全国の書店またはamazon, 日本武道館ホームページで

英語版
『日本の武道』

海外修業者に
おすすめの本!



自然科学系

演 題	発表者	所 属
女子柔道選手における合宿時のコンディション評価	鈴木なつ未	筑波大学
柔道選手が考える理想の減量と実際	桐生 拓	横浜国立大学大学院
一流選手のコンディションの変化 ― 2011 年世界柔道選手権大会前後に着目して―	平岡 拓晃	了徳寺学園
柔道の練習法に関する持久力トレーニングとしての効果 ―内股系統のスピード打ち込みについて―	法兼 真	総合警備保障株式会社
剣道の攻撃場面における反応特性に関する研究	中村 春貴	筑波大学大学院 人間総合科学研究科
剣道の打突動作における体幹部の移動について	中野 雅貴	順天堂大学
カンガルージャンプトレーニングが打突動作速度と打突姿勢に及ぼす影響	椿 武	環太平洋大学短期大学部
大学女子剣道競技者の体力特性 ―筋パワーを中心として―	井上 哲朗	国際武道大学
柔道選手における競技力の主観的評価尺度の作成 (その2) ―競技成績と AHP からの検討―	前川 直也	国際武道大学
荷重動揺軌跡測定による柔道選手の特性	片山 証子	筑波総合研究所
柔道畳簡易設置ユニット「トメ太郎」の有効性	小澤 雄二	熊本大学
柔道選手における ACTN3 遺伝子多型についての研究 ―T 大学柔道部を対象として―	上水研一郎	東海大学
「物打ち」に関する一考察	草間益良夫	広島大学
剣道の正面打突に伴う圧力センサーを用いた手のうちの研究	鈴木 貴也	大阪体育大学大学院
剣道打突時の竹刀慣性モーメント	金子 敬二	明星大学
空手における打撃時の体捻転軸	安田 翼	明星大学
剣道による踵骨骨量の左右差について	宮本 賢作	福山市立大学
剣道試合における審判員の注視点について	八木沢 誠	日本体育大学
無塗装の剣道場の床面に対する感覚的評価および物理的条件とスポーツ障害との関連	池田 孝博	福岡県立大学
男子大学柔道選手における大外刈打ち込みの運動強度	小倉 大輝	筑波大学
足趾力スポーツパフォーマンスの安定性に及ぼす影響に関する研究 ―柔道競技の場合―	小嶋 新太	日本体育大学
大学柔道選手における股関節の柔軟性について	松崎 守利	九州女子短期大学
握力発揮が柔道選手の全身反応時間に及ぼす影響	久保田浩史	岐阜大学
骨年齢からみた小学生柔道選手における除脂肪体重の性差	藤田 英二	鹿屋体育大学
高気圧エアチャンバーの使用が運動後の疲労回復に与える影響	酒井 孝允	横浜国立大学
情報エントロピーからみた受身最終動作姿勢の分析	河鱈 一彦	関西学院大学
柔道固有の動作における熟練者と初心者の頭部角加速度 ―頭部外傷予防について―	石井 孝法	筑波大学大学院
柔道の投技における並進および回転頭部加速度の測定	村山 晴夫	獨協医科大学、 山梨大学大学院
柔道の組み方に関するバイオメカニクスの研究： 内股における相四つとケンカ四つの相違について	中野 勝司	筑波大学大学院
柔道女子軽量級選手における組み方の違いによる背負投動作の研究	福見 友子	了徳寺大学

一般研究発表演題・発表者一覧①

人文・社会科学系

演 題	発表者	所 属
近世初期剣術における精神性に関する一考察	村上 雷多	筑波大学大学院
一刀流剣術における構えに関する一考察	三苫 冨	筑波大学大学院
剣術および槍術における試合技術の発展過程についての考察 —天保7年の『他流試合口並問對』の分析—	森本 邦生	広島県立佐伯高等学校
技の源流を探る—神事の薙刀より—	福田 啓子	皇學館大学
近江の奉納剣術額について	三苫 保久	滋賀県立瀬田高等学校
肥前に伝わった宝蔵院流洪江伝・姉河流の伝承と術技に関する研究 —宝蔵院流に関する研究（その9）—	石川 哲也	尚稽館
山本勘助著「兵法秘伝書」を読む	内田 建也	山梨支部
手裏剣術考	早坂 義文	日本古武道振興会
柔道国際化の要因：他の武道との比較から	佐藤 勝哉	秋田大学
外国人の考える日本柔道の重要さ	カドーイブ	トゥールーズ・ル・ミライユ第2大学 (フランス)
柔道練習生の意識調査に関する研究（第1報）フランス、スイス、日本の国別比較	平野 嘉彦	京都外国語大学
柔道ルネッサンス活動に対する認識状況について —高校生及び大学生柔道部員を対象にして—	光本 健次	東海大学
武術由来の身体技法にみる医療文化—柔術活法研究から—	久保山和彦	IPU 環太平洋大学
「The Game of Ju-jitsu」に於ける技術論と明治期の講道館に於ける技術論の比較	内田 賢次	学校講道館
韓国剣道連盟（大韓剣道会）の動向について— KENDO に対する認識—	加藤 純一	文教大学教育学部
花郎道の意味創造と武道・スポーツの融合	朴 周鳳	国際武道大学
東北アジアにおける武文化の共有—韓国の武道の伝播と受容と伝承を中心に—	李 燦雨	筑波大学
朝鮮文献にみられる「倭剣」に関する一考察	大石 純子	八洲学園大学

ポスター発表

演 題	発表者	所 属
The formation of the warrior's status through physical techniques in the early modern period- Based on a review of the <i>kosyu-ryu heiho series</i>	Kentaro TAI	Nagasaki International University
An electromyographic study of the lower limb muscles during <i>fumikomi</i> movement in kendo and karate athletes	Masaki FUMOTO	Tokyo International University
Expertise differences in <i>maai</i> maneuvers in kendo matches	Motoki OKUMURA	Faculty of Education, Shizuoka University
Quantitative characterization of kendo men strike from electromyography and kinesiology	Takayuki HIRATA	Department of Human and Artificial Intelligent Systems, University of Fukui
The characteristics of injuries among junior karate athletes	Kaori INOSHITA	International Budo University
Improvement of flow state during practice of kyudo through autogenic training	Tatsuo YAGI	Seiwa University
The effects of exercise program applied with <i>gojyu-ryu</i> karatedo <i>kata</i> breathing method on physical and mental aspects in elderly women	Kanako EDAMOTO	Graduate School of Education, Tokyo Gakugei University
A functional MR imaging trial for <i>kata</i> motor imagery tasks of experts in karate and judo	Yoshiharu FUJIEDA	Fukui College of Health Sciences
Physical safety and mental benefits of exercise prescription based on <i>gojyu-ryu</i> karatedo <i>kata</i> breathing method for Japanese elderly	Shota YASUKAWA	Graduate school of Education, Tokyo Gakugei University
Motion analysis of the stand technique for men in the All Japan Judo Championship	Ryuji OKADA	Kinki University
The pushing or pulling force exertion under unbalanced conditions	Misaki ITEYA	Tokyo Gakugei University
Risk assessment of <i>Staphylococcus aureus</i> in judo athletes	Sayuri YAMAMOTO	Faculty of Health and Sports Sciences, University of Tsukuba
Investigation on actual situation of youth judo teaching in France	Morio SUGANAMI	Juntendo University
Investigation into instruction actual situation in the boy judo of Japan	Ryosuke OZAKI	Juntendo University

国際セッション

演 題	発表者	所 属
Lost in translation? : The challenges of rendering Miyamoto Musashi into English	David Kimball GROFF	Meiji University
Philosophy and pragmatism of budo as unique area of application the empirical theory of combat sports	Kalina Roman MACIEJ	Faculty of Physiotherapy, Academy of Physical Education, Katowice (Poland), Archives of Budo
Introduction to combat logic – A general theory	Dominique BRIZIN	University of Cologne (Germany)
An investigation of the intended learning outcomes of Japanese high school physical education teachers: A comparison of kendo instructors and rugby instructors	Blake BENNETT	University of Canterbury
The current situation of judo in Germany-An analysis of the teaching and training program of the German Judo Federation	Maja Sori DOVAL	Meiji University
Effects of the International Judo Federation referee rules on competition contents in the All-Japan Judo Championships : A 2008-2013 comparison	Keisuke MIYAKE	Chukyo University
The consciousness analysis of teachers teaching required “martial arts” in physical education in Japan : male and female physical education teachers teaching “judo” at the junior high school level	Masatoshi SAITO	Kobe Shinwa Women's University
Factor analytic study on the psychology of judo -In the case of judo <i>kata</i> athletes-	Takayuki YOKOYAMA	Setsunan University
A pattern of disseminating ju-jutsu and judo overseas before World War II	Susumu NAGAO	Meiji University
Information dynamics in judo	Hiroyuki IIDA	Japan Advanced Institute of Science and Technology
A study of the typical mistakes in <i>koshiki no kata</i> and their correction	Tatsuya MATSUMOTO	Tokyo Judo Federation
Leg extension power in heavyweight elite judo athletes	Takeru SATO	Kogakkan University
Motion analysis of the stand technique for women's judo	Yoko TANABE	Nihon University
Pedagogical intention of martial arts and combat sports in physical education classes	Abel FIGUEIREDO	Polytechnique Institute of Viseu
Developing the skills of muscle relaxation and muscle choice in karate	Tatehiro TOYOSHIMA	Reitaku University
The reception of G. Funakoshi's philosophy in traditional karate (ITKF) circle in Lublin region	Michal PEDRACKI	Polish Academy of Sciences
A study of the founding of dojos by female karate instructors and their teaching activities	Hiromi HISHIKI	School of Graduate Studies, the Open University of Japan
Kinesiological analysis of karate front kicks on Portuguese elite competitors in comparison with black belt non competitors practitioners	António VencesBRITO	Rio Maior Sport School
Mechanics of an arrow	Takeo NAKAGAWA	Japan Advanced Institute of Science and Technology
Budō education at universities overseas : The opportunities and challenges	Stephen Robert NAGY	Chinese University of Hong Kong
The ‘Recivilising’ process of kendō in the Immediate post-war period: An analysis of the significance of <i>shinai-kyōgi</i>	Alexander BENNETT	Kansai University
Research on the worth of kendo associated with its internationalization - Comparison of Korean kumdo and Japanese kendo -	Yoshiko ODA	Tokai Gakuen University
Wartime naginata education : a survey of the Monbushō Seitei Kata	Baptiste TAVERNIER	International Budo University - graduate school
Japanese postures toward international development of naginata. A study from the 60's to present day.	Chloe BELLEC	Paris Diderot University, UFR of Languages and Cultures in East Asia studies
Budo practice as a means for post-stroke rehabilitation : case studies	Kantaro MATSUI	International Budo University
Ulysses S. Grant and the display of martial arts in Meiji era : From “Jutsu (Technique)” to “Culture”	Tetsuya NAKAJIMA	Kagoshima University
The differences between <i>jūjutsu</i> and <i>judō</i> : modifications to <i>jūjutsu</i> made by KANŌ Jigoro in creating <i>judō</i>	Naoki MURATA	Kodokan Judo Institute
Some thoughts on the transmission and development of jujutsu and aikido in Hungary	Balázs SZABÓ	Eotvos Lorand University, Hungary
Genesis, the creation and development of International Martial Arts and Combat Sports Scientific Society (IMACSSS), as a community of scientists and practitioners of martial arts and combat sports	Krzysztof L.KUBALA	University of Rzeszów, Poland

一般研究発表演題・発表者一覧②

武道指導法系

演 題	発表者	所 属
宮城県中学校における武道授業の実態 ―柔道の指導内容を中心に―	箱島 道泰	仙台大学大学院
初転君を用いた指導が柔道未熟練者の前回り受身に及ぼす即時的効果	濱田 初幸	鹿屋体育大学
発見学習型新受身プログラムの有効性の検証	藪根 敏和	京都教育大学
空手道の指導ことばについての研究	石井 祥子	大阪体育大学大学院
剣道の本質を踏まえた指導の考察	大保木輝雄	埼玉大学教育学部
国際化による変化の帰着点に関する一考察	横地 浩紀	無所属
日本剣道形への取り組みに関する一考察 ―剣道専門課程で学ぶ大学生の意識を中心に―	佐藤 皓也	埼玉大学大学院 教育学研究科体育学専攻
踏み込み面に関する類似の運動の加速度解析	上田 純也	茨城大学大学院 教育学研究科
剣道試合における有効打突時の「掛け声（発声）」の分析	大塚真由美	東海大学
剣道の正面打突動作に関する研究	今福 一寿	明星大学
初心者指導に使用する竹刀の検討 ―打撃力測定を中心に―	横山 健太	鳴門教育大学大学院
柔道学習指導のための映像教材の開発	高橋隆太郎	秋田大学
男女併習による必修化武道の授業効果 1)	松本純一郎	夙川学院高等学校
男女併修による必修化武道の授業効果 2) ～柔道に関する意識実態の把握について	内村 直也	大阪産業大学
柔道の審判員の投技評価における位置について(2)	林 弘典	明治国際医療大学
国際柔道連盟試合審判規定新ルールの試験的導入に関する一考察 ―川村禎三杯を対象として―	田中 康介	筑波大学
IJF2013 ルール改正に伴う戦術行動にみる投技効力の変化について	伊藤 潔	順天堂大学大学院
国際柔道連盟試合審判規定改正が、選手のディフェンス行動に与える影響について	鈴木 桂治	国士舘大学
中学校剣道授業による生徒の意識変化に関する研究	山口 幸一	大阪体育大学
剣道が中学生の学習規律と学校適応感の形成に及ぼす影響に関する 学校心理学的研究	井上 聡	兵庫教育大学大学院
武道必修化に伴う剣道初心者の指導法に関する研究 ―基本動作における指導手順の検討―	竹中健太郎	鹿屋体育大学
全国の特別支援学校における武道必修化に伴う授業展開の現状と課題 ―聴覚障がい者に対する教授法に着目して―	柳田 昌彦	同志社大学 スポーツ健康科学部
武道必修化に期待する教育効果 ―体育科専攻学生に着目して―	佐藤 光介	横浜国立大学大学院
剣道指導法に関する研究 ―初心者における打撃動作と痛みの関係について―	天野 聡	東海大学
剣道学習における類似の運動としての「ボール打ち」の妥当性について	柴田 一浩	流通経済大学
剣道試合における新しい判定制の検討 ―剣道のよさを生かす試みとして―	木原 資裕	鳴門教育大学
剣道における“一拍子の打ち”の考察	大矢 稔	国際武道大学
剣道の試合における防衛姿勢の実態に関する調査研究	笹木 春光	東海大学
大学体育授業における合気道のラーニングアウトカムとは？	園部 豊	日本体育大学

好評発売中



スポーツドクター **辻 秀一** 著
四六判・上製・248 ページ

武道やスポーツは「医療である、芸術である、コミュニケーションである、教育である」とする筆者が、指導者のために書いた良きハンドブック。ぜひ、ご一読を。



主な目次

- 第1章 「文武両道」の人間教育
- 第2章 真剣勝負を楽しみ、人間的成長を図る
- 第3章 「セルフイメージ」という心のエネルギー
- 第4章 トップアスリートに学ぶ「社会力」
- 第5章 たかが目標、されど目標
- 第6章 「武士道書」に学ぶ
- 第7章 子どもたちの「社会力」を育てる
- 第8章 「オンリーワン」の子どもを育てる

ほんとうの価値の伝え方

武道・スポーツの真髄

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

（翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット）

（B5判・上製・DVD付・336頁）



武士道に学ぶ

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・344頁）



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

（四六判・上製・326頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

（四六判・上製・220頁）

復興支援 とどけよう スポーツの力を東北へ！

第64回 全日本男子弓道選
第46回 全日本女子弓道選

滝上三郎と 藤野小百合に 日本一の栄冠に

優勝＝滝上三郎教士七段（埼玉）

天皇盃第 64 回全日本男子弓道選手権大会
皇后盃第 46 回全日本女子弓道選手権大会



天皇盃第64回全日本男子弓道選手権大会・皇后盃第46回全日本女子弓道選手権大会が、9月20日から24日、遷宮で盛り上がる三重県伊勢市にある神宮弓道場で開催された。さわやかな秋晴れの空のもと、全国各都道府県の代表である男子109名・女子105名がそれぞれ出場し、日本一の座をかけて争った。

男子は初出場の滝上三郎教士七段（埼玉）が優勝して天皇盃を手にした。最高得点賞は土佐正明教士八段（千葉）が受賞した。女子は藤野小百合教士七段（福岡）が初優勝に輝き、最高得点賞は齋藤往子教士七段（東京）に与えられた。

優勝＝藤野小百合教士七段（福岡）

男子

9月22日、24日

22日に開会式と矢渡が行われ、23日に109名が出場して予選が行われた。

予選は男女とも一手（2射）2回を行い、2中以上で、採点制による得点上位20名が翌日の決勝戦に進む。過去2回最高得点賞を取っている土佐正明（千葉）は2回の結果4中、得点1550点を記録し、3回目となる最高得点で通過した。

24日の決勝には、ほかに川名修徳（宮崎）、増渕敦人（栃木）、細川孝夫（福井）、才川義昭（大分）、安倍智（大分）といった過去の選手権者や、入賞者も多く名を連ねた。

決勝は男女とも、一手5回の制で争われる。序盤から外す選手が多く、2回が終わった時点で、皆中の可能性を残すのは早くも吉田佳史（徳島）、滝上三郎（埼玉）、細川のわずか3名のみとなった。しかし、この3名も続く3回目で外す。

皆中者ゼロとなり、誰が勝ってもおかしくない混戦状態で試合は進む。5回を終えた結果、川名、滝上、

坂本達雄（青森）、佐々木光彦（秋田）の4名が8中でトップとなった。

次いで7中は、吉田、増渕、細川、佐藤史成（青森）、多湖賢治（三重）、堀本秋弘（三重）、土佐、角坂憲次（東京）、小林憲二（新潟）、才川、安倍、岩尾俊高（大分）の、計12名にのびた。

まず、5位を決める遠近競射がこの12名で行われ、その結果、小林の5位入賞が決まった。

続いて、8中の4名による優勝決定射詰競射に移った。1本目で坂本が外す。2本目、3本目と進み、4本目で佐々木が脱落。

残るは2回の優勝経験を持つ川名と、初出場でここまできた滝上。緊張感が漂う中、5本目は両者ともに的中。6本目、先に引いた川名が外す。

弓道場は静まり返り、蟬の声のみが響き渡る。滝上は淡々と落ち着いた様子で弓を引く。会場にいる全員が見守る中、滝上の放った矢は見事の中。滝上に惜しめない拍手が送られた。

滝上は、67歳での初出場初優勝となった。

立順	氏名	所属	予選			決勝																遠近 競射	順位	
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	的中	射詰							
1	吉田 佳史	徳島	3	1503	17	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	7								
2	川名 修徳	宮崎	4	1537	3	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	8	○	○	○	○	○	×		2
3	増渕 敦人	栃木	3	1512	10	×	○	○	×	○	○	○	×	○	○	7								
4	滝上 三郎	埼玉	3	1500	19	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	8	○	○	○	○	○	○		1
5	坂本 達雄	青森	3	1538	2	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	8	×							4
6	細川 孝夫	福井	3	1519	7	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×	7								
7	佐々木光彦	秋田	4	1503	16	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	8	○	○	○	×				3
8	荒川 博行	北海道	3	1525	4	×	×	○	×	○	○	○	×	○	○	6								
9	佐藤 史成	青森	2	1511	11	○	○	○	×	○	○	×	○	×	○	7								
10	多湖 賢治	三重	2	1506	15	○	○	○	×	○	×	○	○	○	×	7								
11	堀本 秋弘	三重	4	1509	12	×	○	○	○	○	×	○	○	○	×	7								
12	佐藤 昌仙	岩手	3	1508	14	×	○	×	○	○	○	○	×	○	×	6								
13	土佐 正明	千葉	4	1550	1	×	○	×	○	○	×	○	○	○	○	7								
14	角坂 憲次	東京	4	1514	8	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	7								
15	小林 憲二	新潟	3	1520	6	○	○	○	×	○	×	○	○	○	×	7							1	5
16	永沼 祥二	福島	3	1498	20	×	○	×	○	○	×	×	×	○	○	5								
17	才川 義昭	大分	4	1523	5	×	○	○	○	○	○	×	×	○	○	7								
18	森本 浩之	愛媛	3	1502	18	×	×	○	×	○	○	○	×	○	○	6								
19	安倍 智	大分	3	1514	9	○	○	○	×	○	×	○	×	○	○	7								
20	岩尾 俊高	大分	4	1508	13	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	7								



第2位＝川名修徳教士八段（宮崎）



最高得点賞＝土佐正明教士八段（千葉）



第5位＝小林憲二教士七段（新潟）



第4位＝坂本達雄教士六段（青森）



第3位＝佐々木光彦錬士五段（秋田）



優勝決定射詰6本目の滝上（右）と川名

女子

9月20日、22日

20日に伊勢神宮への参拝、開会式、矢渡が行われた。

21日に行われた予選には、105名が出場。前回・前々回と最高得点だった藤野小百合（福岡）は2中で得点も1490点と伸びず、11位での通過となる。また、最高得点賞5回受賞の飯島千代子（埼玉）は、1514点で2年ぶりに予選を通過するも、順位は2位。

これまでの最高得点受賞者たちを抜いて最高得点を取ったのは、4中で1534点の齋藤往子（東京）だった。齋藤は4回の優勝経験を持つが、最高得点賞を受賞するのは今回が初めてのこと。

22日の決勝、3回目が終わって、藤野と飯島の2人が皆中。5中で齋藤と大西由起子（岡山）が追いかける展開となった。4回目、齋藤は7本目を外して優勝戦線から脱落。藤野は皆中し、飯島は7本目を外した。大西は皆中して、最終回に望みをつないだ。

最終回、藤野は9本目を的中して、



10射皆中での優勝なるかの一点に会場の注目が集まる。しかし、10本目は惜しくも外れ、勝負の行方は大西と飯島の結果に持ち越された。奇しくも同じ立の両者、大前の大西が9本目を外すと、中の飯島も失中。あっさりと藤野の優勝が決まり、出場4回目で初の皇后盃を手にした。すべての立が終わわり、8中が三澤京子（神奈川）、大西由紀子（岡山）、飯島、久保田智恵（長野）の4名となったため、2位から5位を決める遠近競射が行われた。その結果、2位は久保田、3位は大西、4位は三澤、5位は飯島に決定した。

立順	氏名	所属	予選			決勝										的中	遠近競射	順位
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
1	齋藤 往子	東京	4	1534	1	○	○	○	○	×	○	×	○	○	×	7		
2	星野 信子	愛知	4	1503	4	×	○	×	○	○	○	×	×	○	×	5		
3	額額かつ江	岐阜	3	1489	12	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○	7		
4	伊藤紀美子	三重	4	1513	3	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	3		
5	有澤 千秋	鳥取	3	1490	10	×	○	×	○	×	○	○	○	○	×	6		
6	藤野小百合	福岡	2	1490	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	9		1
7	佐野 弥生	山梨	2	1486	15	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	2		
8	竹下 知朋	佐賀	3	1487	13	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	6		
9	小松 正美	大阪	4	1483	19	○	○	○	○	○	×	○	×	×	×	6		
10	田中 邦子	長崎	2	1485	17	○	○	×	○	×	×	○	○	×	×	5		
11	坂本 祐子	石川	4	1500	5	×	×	○	○	×	○	○	×	×	○	5		
12	中崎千恵子	広島	3	1485	16	×	○	×	×	○	×	○	×	○	×	4		
13	大橋 邦子	北海道	2	1484	18	×	○	○	○	○	×	○	○	○	×	7		
14	立野 知己	山口	3	1499	6	○	×	×	○	○	○	×	×	×	○	5		
15	三澤 京子	神奈川	3	1495	7	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	8	3	4
16	大西由紀子	岡山	3	1482	20	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	8	2	3
17	佐竹 明美	北海道	3	1495	8	○	×	○	×	○	×	×	×	×	○	4		
18	飯島千代子	埼玉	3	1514	2	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	8	4	5
19	西脇 早苗	岐阜	3	1491	9	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	1		
20	久保田智恵	長野	4	1486	14	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	8	1	2



優勝した藤野に石川武夫全日本弓道連盟
会長から皇后盃が手渡される



第2位＝久保田智恵教士六段（長野）



最高得点賞＝齋藤往子教士七段（東京）



第5位＝飯島千代子教士八段（埼玉）



第4位＝三澤京子教士六段（神奈川）



第3位＝大西由紀子教士六段（岡山）

入賞者たちによる喜びのコメント



◎優勝Ⅱ滝上三郎教士七段（埼玉）

「夢のようです。範士の先生方に指導いただいたことが、徐々に自分のものになってきたのかなと思います。大先輩がたくさんいる中でしたが、教わったことだけに専念して、気張ることなく引けました。射詰では体が勝手に動くような感覚で、最後2人になったときも、楽しみな気持ちだったくらいです。

弓道は高校の時に始めました。秩父農工という、弓道の強い学校でした。卒業し、就職してからは、10年くらい弓を引くことはありませんでした。再開したのは独立して自営業になってからのことです。安土だけ貸してくれるところがあって、近所の人たちと始めたんです。経験者は2人くらいで、道楽みたいなものでしたけどね。

そして25年くらい前に、地元にある武輝神社の宮司・鈴木守さんを館長に、数名の仲間と道場『二心館』を自費で作ったんです。最初は小さな道場でしたが、今では会員も約50人になりました。宮司さんには本当にお世話になったのですが、2年程前に亡くなり、それからは私が館長

を務めています。道場のみんなには、この大会に向けて自分自身の稽古の時間をくれと頼んで、ここ20日間くらい好きに過ごさせてもらいました。本当に周りの人たちが環境に恵まれていると思います。

これからも、一歩でもいいから自分の弓が前に進めるよう、真剣に取り組んでいきたいと思っています」

◎2位Ⅱ川名修徳教士八段（宮崎）

「淡々と、自分の弓を引けるかどうかということだけに注意していました。今日のように長くなると、体力的にだめなので、それを精神力で補えるようにしなければならんと思いました。心身ともに鍛え直す良いきっかけになったと思います。年をとっても、精神力で体力面を補って続けられるのが、弓道の良いところですね」

◎3位Ⅱ佐々木光彦錬士五段（山形）

「実感がまったく湧きません。選手権は2回目ですが、去年は予選落ちしてしまっただけでも有り難いことだと思っています。今日は運が良かったんだと思います

ます。最後は体力的にきつくなつてきて、そこで踏ん張れずに一本はずれが出てしまいました」

◎4位Ⅱ坂本達雄教士六段（青森）

「入賞できて嬉しい半分、優勝を逃して悔しい気持ち半分あります。また明日から、来年に向けて、天皇賜盃を目指して精進していきます」

◎5位Ⅱ小林憲二教士七段（新潟）

「嬉しい反面、外れた3本は全部同じところで失敗しているので、一本目で気づければという悔しい思いがあります。予選では自分でも納得の射ができたので、それを確実にできるよう稽古に励んでいます」

◎最高得点賞Ⅱ土佐正明教士八段（千葉）

「7月に八段になり、師匠の柴田猛先生から『八段なんだから最高得点を取ってこい、それで有終の美にしろ』と言われていて、それが実現できて、ほっとしています。予選のときは指導されたとおりできたのですが、決勝は優勝を少し意識して力んだために失敗してしまいました。本

当はこれで最後にしようと思つていたのですが、最高得点賞を取つて来年も出られることになったのも、嬉しい誤算ですね」



◎優勝Ⅱ藤野小百合教士七段（宮崎）

「最高得点以外の入賞はしたことなかったのですが、まだ信じられませんでした。今日は淡々と引くように心がけました。ただ、決勝で引いているときのことはあまり覚えていません。最後の10本目を外したのも自分らしいかなと思いますが、集中を切りさえないのが難しいですね。」



弓道は大学生のときに始め、その後は、仕事や子育てのため休んでいました。主人の転勤で福岡に引越して知り合いもなく、道場に行つてみようかと思つたのが再開のきっかけです。再開してからは、学生の頃と違って、弓道の難しさを感じるようになりしました。今は仕事前の朝の時間を使って週に4、5日稽古をしています。仕事もしています。弓道は先の遠い、難しい世界。優勝したとはいえ、勉強することがまだまだあるので、今後も一つひとつ取り組んでいきたいと思っています」

◎2位Ⅱ久保田智恵教士六段（長野）

「決勝は初めてでした。今までは応援にまわっていたので、ここにいるのが自分じゃないような、遠くで見ているような感じでした。控えでは、同じ立の先生方が和ませてくれました。一緒に引かせていただけて光栄でした。まだまだ課題がたくさんあるということが、はつきり分かったので、理想の射に近づけるようこれから頑張りたいと思います」

◎3位Ⅱ大西由紀子教士六段（岡山）

「とにかく嬉しいですね。決勝も初めてなので、まだ夢のなかのようです。予選20位で底からのスタートだったので、どこまでいけるかなくらいの気持ちでした。大会直前まで本当に調子が悪かったので、今まで指導されたことを一つひとつ思い出しながら、落ち着くよう自分に言い聞かせながら引きました」

◎4位Ⅲ三澤京子教士六段（神奈川）

「とても嬉しいの一言です。選手権は初めての出場です。初めてだからこそ怖いもの知らずみたいなところもあったかも知れません。ただ、

そうそうたる方々と一緒に立てるということで、緊張はともありました。またここに出られるよう、自分を高めていきたいです」

◎5位Ⅱ飯島千代子教士八段（埼玉）

「入賞できて有り難いです。去年、一昨年と予選落ちしてからは、予選落ちのままで終われないという強い気持ちで稽古していたため、強い射ばかりになってしまっていました。そんな時に、そんなに力を入れなくていいんだよと指導いただいたので、これが本当の弓道なんだと改めて思いました。本当にみなさんのおかげです」

◎最高得点賞Ⅱ齋藤往子教士七段（東京）

「まだまだできないこと、足りないところも多いので、私にはかなり重い賞だなと思っております。優勝は明るい気持ちでしたが、最高得点賞はまだ違いますね。技術も、気の持ちようも、その他にも立ち居振る舞いなど、勉強することはいっぱいあるので、来年に向けて稽古に励みたいですよ」



成年男子近畿優勝=大分県
大前・佐藤陽一、中・首藤浩太郎、落・石川嵩

第 68 回国民体育大会弓道競技会

成年男子近畿、 大分県が 45 年ぶり 3 回目の優勝

男女総合 1 位は高知県

結果は、成年近畿で男子が大分県、女子は鹿児島県、成年遠的では男子が岡山県、女子は高知県が優勝した。少年近的では男子が鳥取県、女子は高知県、少年遠的は男子が高知県、女子は栃木県が制した。男女総合 1 位は高知県となった。

初日には常陸宮同妃両殿下がお成りになり、少年女子近的予選をご覧になられた。

第 68 回国民体育大会弓道競技会（主催 日本体育協会、文部科学省、東京都、全日本弓道連盟、小金井市）は、9 月 29 日～10 月 2 日の 4 日間、小金井市の東京都立小金井公園弓道場で開かれた。種目は、性別、年齢別、遠的、近的でそれぞれ分かれ、全国各ブロックの予選を勝ち抜いた、計 62 チーム（1 チーム 3 人）が参加して争われた。



満員となった近畿会場の観客席

□大会ルール

全国のブロック予選通過チームが、近的・遠的の両方に出場。参加チーム数は、成年男子が30、成年女子が24、少年は男女とも19。

競技は各種目3人制の団体戦で行われ、近的は的中制、遠的は得点制で争われた。近的・遠的共に、予選で1チーム24射(各自4射2回)を行い、成績上位8チームが決勝進出。決勝は1チーム12射で(各自4射1回)トーナメント法により競われた。

□成年近的

成年男子近的は、決勝トーナメント初戦で兵庫が長野を、青森が栃木を、高知が鹿児島を、大分が北海道を降した。2回戦(準決勝)は、10中の青森が7中の兵庫に勝利。一方では、大分が11-10の僅差で高知を退けた。

決勝は、大分と青森が対戦した。大分は、中が留矢を抜くのみで、11中と高的中でまとめ、9中の青森に勝利。45年ぶり3回目の優勝を果たした。

□成年遠的

成年女子遠的は、鹿児島と広島が決勝で対戦。鹿児島の大前が皆中の活躍をみせ、9対7で鹿児島が広島を降して優勝した。

◎成年男子優勝Ⅱ落・石川嵩監督(大分)「去年は九州ブロックで敗退しました。悔しさを晴らすには勝つことしかないと思います。ここまで来ました。自信が持てるだけの練習をしっかりしてきたので、始めから優勝を目指していました」

□成年遠的

成年男子遠的は、岡山が決勝トーナメント初戦で98点、準決勝で70点をだし、兵庫(65点)、大分(55点)を順に降した。岡山は決勝でも96点と高得点を出し、52点に止まった鹿児島を退けて頂点に立った。

成年女子遠的は、前回優勝の愛知が準決勝で広島に敗退。その広島は決勝で高知と対戦。結果は、高知の中と落がそれぞれ30点を出して、合計79点とし、63点の広島に勝利した。



成年女子近的優勝＝鹿児島県

大前・窪田理沙、中・植村遼香、落・橋口聡子

◇落・橋口監督「初戦から全て一本差での勝利でした。一本の大切さを実感しました。勝ちにこだわらず、無欲で引きました」



成年男子遠的優勝＝岡山県

大前・吉田章朗、中・古谷勉、落・西村英信

◇落・西村監督「昨年は、優勝した山口県に準決勝で一本差で負けました。悔しさをバネに同じメンバーで優勝を狙いました」



成年女子遠的優勝＝高知県

大前・西森空、中・奥村果穂、落・山下恵

◇落・山下監督「東京に着いてから練習する時間を作り、調整してきました。前の2人の調子も上がり、安心して引けました」

□少年近的

少年男子近的は、前回優勝の熊本が決勝トーナメント初戦で高知と対戦。高知が10―9で熊本に勝利した。鳥取対新潟は、鳥取が11―10と僅差をものにした。そのほか、福岡が愛

知を、宮城が鳥根を降した。

準決勝は高知が11中で、9中の福岡に勝利した。鳥取対宮城は、鳥取の中と落が皆中し、10―9で宮城を退けた。

決勝は鳥取と高知が共に10中で同

中一本競射となり、両チームとも2回目まで皆中。3回目は高知の犬前が外す一方、鳥取が皆中で勝利した。少年女子近的は、前回優勝の高知が決勝トーナメント初戦で鳥取に7―6で勝利すると、準決勝は中と落

が皆中の活躍で計10中。8中の長野を降した。

決勝は高知と宮崎が対戦。高知は落が惜しくも4本目を抜いて11中。一方の宮崎は9中で終えた。結果、高知が2連覇を遂げた。



少年男子近的優勝＝鳥取県 大前・藤井貴宏、中・今井徹、落・加藤陸

◇福光善太監督「今年のインターハイ優勝メンバーで臨みました。経験は豊富なので、自信を持ったまま萎縮しないで臨めるかどうかが課題でした。予選から徐々に自分のペースを掴んできた様子でした。最後はいい結果に繋がられてよかったです」

◇藤井選手「集中力が足りずに抜いてしまう場面があったのが反省点です。ひとまず弓を置いて受験勉強に専念します」

◇今井選手「高校最後の試合で結果が出て嬉しいです。ただ中てることだけ考えました」

◇加藤選手「欲を出さずになるべく無心で引きました。できれば大学でも弓を続けたいです」



少年女子近的優勝＝高知県 大前・川村綾佳、中・北岡史帆、落・片岡愛

◇石本仙人監督「今回の選手たちは、昨年優勝したメンバーの矢取りをしていた子たちです。成長ぶりに驚いています。これからも結果をしっかりと残して、高知の弓道を盛んにしていきたいです」

◇川村選手「やるしかないと思って頑張りました。関係者の方々が声をかせて応援してくれたのが嬉しかったです」

◇北岡選手「この国体を通じて人間的に成長できたと感じています」

◇片岡選手「中てなければいけないという意識が強すぎて、最後は抜いてしまいました。これまで支えてくれた人たちに感謝したいです」



少年女子遠的優勝＝栃木県

大前・小太刀向日葵、中・大出友里恵、落・高橋瑠奈

◇増淵敦人監督「近的で予選落ちしたことで、火がついたようです。遠的で勝てるとは思っていませんでした。感無量です」



少年男子遠的優勝＝高知県

大前・小笠原兆志、中・石元佑弥、落・山本享

◇松崎大征監督「トーナメントで10点が出ず、本人たちは若干不満だったようですが、いい結果が出てよかったです」



弓道体験コーナーに集まる人々



初めて弓を引く荒木さん（左）

●弓道体験コーナーが大盛況
大会期間中、会場周辺は国体開催の旗に囲まれ、記念グッズ販売店、土産物店などが並んだ。その中で、ひととき注目を集めたのが「弓道体験コーナー」。初日には500人もの希望者が集まり、列をなした。「娘の好きなアニメの登場人物が弓道をしているので、本物を見せようと、一緒に来ました」という国分寺市の荒木正憲さん（34歳）は、「初めて引きました。けっこう力が必要なものだと感じました」と、汗を滲ませながら、感想を語った。

□少年遠的
少年男子遠的は、高知が決勝トーナメント初戦で82点、準決勝では大前が計34点を出す活躍で、チーム合計90点をマークし、鳥取（66点）、鹿兒島（70点）を順に降した。高知は決勝で70点と、これまでの勢いはなかったものの、対する群馬が56点
と振るわず勝利。2連覇を果たした。
少年女子遠的は、決勝トーナメント初戦で栃木の落が一本目から3連続9点、4本目で10点を記録する好成績。71―36で栃木が鹿兒島を退けた。勢いづいた栃木は準決勝で山梨を72―58で破り、決勝では愛媛と対戦。3本目で9、7、10点を記録す

るなど、安定した行射で計78点。点の愛媛を降し、優勝した。

62

【大会結果】

▽成年男子近的Ⅱ①大分県②青森県③兵庫県④高知県⑤長野県⑥北海道⑦鹿兒島県⑧栃木県

▽成年女子近的Ⅱ①鹿兒島県②広島県③宮崎県④高知県⑤大阪府⑥大分県⑦岩手県⑧秋田県

▽成年男子遠的Ⅱ①岡山県②鹿兒島県③大分県④奈良県⑤広島県⑥神奈川県⑦兵庫県⑧東京都

▽成年女子遠的Ⅱ①高知県②広島県③愛知県④宮城県⑤新潟県⑥山口県⑦徳島県⑧栃木県

▽少年男子近的Ⅱ①鳥取県②高知県③宮城県④福岡県⑤熊本県⑥新潟県⑦鳥根県⑧愛知県

▽少年女子近的Ⅱ①高知県②宮崎県③長野県④石川県⑤愛知県⑥山梨県⑦鹿兒島県⑧鳥取県

▽少年男子遠的Ⅱ①高知県②群馬県③鹿兒島県④新潟県⑤岐阜県⑥千葉県⑦鳥取県⑧熊本県

▽少年女子遠的Ⅱ①栃木県②愛媛県③山梨県④兵庫県⑤岐阜県⑥東京都⑦宮崎県⑧鹿兒島県

▽男女総合Ⅱ①高知県②鹿兒島県③広島県④大分県⑤宮崎県⑥兵庫県⑦新潟県⑧宮城県⑨愛知県⑩鳥取県

好評発売中

国際武道大学教授

松尾牧則

(まっお まきのり) 著

弓道

その歴史と技法

弓矢の発生から日本における弓術の発達、技法の発展の歴史を追いながら概観し、また、世界の弓術の数々も紹介。現代の弓道の課題や射法についても踏み込んだ、弓道研究の第一線に立つ著者渾身の一書。巻末には、五百冊以上に及ぶ参考文献や、人名索引・事項索引を掲載。弓道のみならず、武道研究者必携の書。



四六判・上製・484 頁

目次

第一章 弓矢の発生と世界の弓術

弓矢の発生と性能向上の工夫／世界の弓矢と射法／W T A F にみる世界の弓術

第二章 日本の弓矢と弓術

日本の弓矢の特性——初期の弓矢／日本弓の変遷と特徴ある形状／日本の矢と弓矢関連具／レクリエーション、儀式としての弓術／歩射と騎射／弓矢の誉

第三章 弓術流派と目的に応じた射術

武術の分化と伝達様式の整備／日置弾正と勸進的の流行／日置弾正正次の肖像と技法／弓術諸流派の技法と伝承／大和流弓術とその伝達様式／三十三間堂通し矢の誉——堂射の隆盛と弓具・技法の工夫／「五射六科」五射の実践／「五射六科」六科の教養／弓術稽古の意義と心得

第四章 弓術から弓道へ

弓術の衰退と命脈——明治時代の弓術／「弓術」から「弓道」へ——大正～昭和初期の弓術／昭和初期～戦中の弓道／戦後の弓道復活と連盟組織

第五章 現代の弓道と将来展望

現在の弓道連盟と競技・審査／新素材の弓具／弓具・服装・施設／学校教育における弓道／現代弓道の体系化された技法①／現代弓道の体系化された技法② 射法八節の要点／弓道——その将来展望と課題

参考文献・索引

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）

武道の全容をこの一冊に集大成！



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

『日本の武道』の英文版 (DVD 付)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道における礼法を小笠原流宗家が直々に指南



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）

武道をわかり易く描いた教養マンガ



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）

希代の弓人阿波研造の人物伝



霊箭 阿波研造物語

小学校教諭

馬見塚昭久 著

（四六判・上製・320頁）

日本人が拠り所としてきた価値観を詳説



日本の元徳

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・334頁）

『五輪書』などの代表的な武道伝書を詳解



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

（四六判・上製・348頁）

著者の半生をたどり、弓道の魅力に迫る



弓道 その魅力

山口大学名誉教授

岡村豊太郎 著

（四六判・上製・272頁）

子どもを育む武道の教育力を詳説



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）

武道の文化的・伝統的な事柄を解明



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）

第68回国民体育大会柔道競技会

千葉が成年アベック優勝

少年男子は神奈川が、少年女子は東京が優勝



成年男子決勝副将戦＝千葉・穴井（右）が内股で一本勝し、2年ぶり3度目の優勝を決めた

第68回国民体育大会柔道競技会
（主催Ⅱ日本体育協会、文部科学省、東京都、全日本柔道連盟、足立区）
は10月5日～7日の3日間、東京・綾瀬の東京武道館で行われた。

大会は成年男女および少年男女の4種目が行われた。

成年男子決勝は昨年と同じ顔合わせとなり、千葉県が宮崎県を破って雪辱し、2年ぶり3度目の優勝を果たした。成年女子は千葉県が3年ぶり2度目の優勝を、少年男子は神奈川県が2年ぶり9度目の優勝を、少年女子は東京都が7年ぶり3度目の優勝をそれぞれ果たした。また、順位に応じた得点で争われた総合成績は東京都が1位となった。

試合は成年、少年ともに男子は5人制で、女子は3人制の団体戦で争われ、勝者数で勝敗を決した。同点の場合は内容によって勝敗をつけ、それでも決まらなかった場合は、引分の試合の中から抽選で1試合を選んでゴールデンスコア方式の3分間の代表戦が行われた。試合時間は4分。時間以内に有効もしくは指導2以上の差がつかなかった場合は引分とした。

■成年男子

ベスト4には宮崎・神奈川・千葉、東京が勝ち進んだ。

準決勝第1試合は宮崎対神奈川。

先鋒戦は宮崎・宮田に指導3がつくと、その後神奈川・松崎が上四方固を決めて総合勝。神奈川が先制したが、その後は宮崎のペースとなった。次鋒の齋藤は神奈川・吉田に内股で一本勝。中堅の西田は掬投で有効を奪って優勢勝。副将の垣田は神奈川・王子谷から小外掛で有効を奪い、試合を決めた。

第2試合は千葉対東京。先鋒の石川が腕拉十字固で一本勝すると、次鋒の西岡も優勢勝。中堅戦を引き分けて、副将戦は東京・高橋が指導2でなんとか望みを大将戦につないだ。代表戦に持ち込むためには一本勝が必要な百瀬だったが、千葉・岩尾も百瀬の攻撃を捌いて引き分け、千葉が2―1で決勝進出を決めた。

▼決勝

千葉	3―1	宮崎
石川裕紀	○内股	宮田雄基
西岡和志	引分	齋藤涼
下和田翔平	○優勢勝	西田泰悟
穴井亮平	○内股	垣田恭平

岩尾敬太 大外返○ 西潟健太

決勝は、宮崎が勝った昨年と同じ顔合わせとなった。先鋒戦、千葉・石川は開始21秒、内股で一本を奪って千葉が先制。次鋒戦は激しい技の応酬となったが決め手に欠いて引き分けた。

中堅戦は宮崎・西田が谷落気味に下和田を引きずり倒して有効を奪うが、その後、技が出なくなり指導が3つ重なり、下和田の勝利。

逆転に一縷の望みをかけて宮崎・垣田が副将戦に臨んだが、終了間際、千葉・穴井が低い姿勢から内股



成年男子決勝先鋒戦＝石川（手前）対宮田

をかけると、垣田の体が一回転し、一本。大将戦は宮崎・西潟が大外返で一本勝して一矢報いたが、千葉が3―1で2年ぶり3度目の優勝をものにした。

●優勝Ⅱ山田利彦監督（千葉）

「石川と西岡がいい流れを作ってくれましたね。普段は京葉ガスと了徳寺学園の選手なのでライバル関係ですが、互いに刺激しあっていました。女子が先に優勝していたので男子も優勝したかったです。それにしても団体の優勝はみんなで喜べるのでいいですね」



成年男子優勝＝千葉県

●優勝Ⅰ石川裕紀選手（千葉）

「今日のチームは後ろが本心に強かったので、安心して自分の柔道に集中できました。膝を怪我してしまっただので得意の背負ではなく、大内、大外、内股で勝負しました。アベック優勝ができて良かったです」

●優勝Ⅱ穴井亮平選手（千葉）

「チームの中で最年長なのでみんなを引っ張っていく気持ちでやりました。今日はそれなりに仕事ができただのかと思います。前が頑張ってくれて、いい流れで回ってきたおかげですね。最近は個人戦でいい成績を残せていないので、次の講道館杯で優勝目指して頑張ります」

■成年女子

先鋒は52kg以下、中堅は70kg以下、大将は体重無差別で配された。

準決勝に勝ち進んだのは東京、千葉、山梨、静岡。第1試合の東京対千葉の試合は先鋒戦を引き分けた後、中堅戦で千葉・今井が一本勝。大将戦は東京・白石が優勢勝したが、内容差で千葉が決勝へ進出した。

山梨対静岡の試合は先鋒戦を山梨が奪ったが、中堅戦で静岡が取り返



成年女子決勝中堅戦＝今井（下）対村山



少年男子決勝中堅戦＝尾方（右）対前田

少年男子

5人制で行われ、先鋒は60kg以下、次鋒は73kg以下、中堅は90kg以下、副将は100kg以下、大将は体重無差別で配された。

準決勝には神奈川、千葉、東京、京都の4チームが勝ち上がった。第1試合は千葉対東京。千葉が次鋒戦で、東京が副将戦でそれぞれ有効ポイントで優勢勝利、1-1で大将戦を迎える。千葉はウルフ・アロン、東京は小川直也の息子・小川雄勢。試合はウルフが浮落で一本勝して、千葉が決勝に進んだ。

第2試合は神奈川対京都。神奈川は先鋒戦こそ引き分けたものの、後は京都を寄せ付けず、4-0の圧勝で決勝進出を決めた。

▼決勝

神奈川 2-0 千葉

関野晴矢 引分 手島 蓮

込山龍哉 ◎優勢勝利 片桐章男

尾方寿應 ◎大外刈 前田宗哉

春日良太 引分 村田大祐

根津信太 引分 ウルフ・アロン

先鋒戦を引き分けて次鋒戦、神奈川・込山は開始1分、袖釣込腰で有効を奪うと、そのリードを守り切っ

すと、大将戦では静岡・土屋が払巻込で一本勝して、2-1で静岡が決勝に進んだ。

▼決勝

千葉 3-0 静岡

角田夏実 ◎腕拉十字固 金田結花

今井優子 ○腰車 村山のどか

渡邊美奈 ◎優勢勝利 土屋文香

先鋒戦、千葉・角田は大内刈で有効を奪って、そのまま寝技の攻防に

移ると一瞬の隙を突いて腕拉十字固に入り、相手はたまらず参った。中堅戦は千葉・今井が腰車で一本勝して試合を決めた。大将戦は千葉・渡邊が優勢勝利して3-0で優勝に華を添えた。

●優勝Ⅱ金丸雄介監督（千葉）

「中堅の今井が頑張ってくれました。私が監督をするようになってから、彼女は国体で負けてないです」

らね。国体の女神といえます」

●優勝Ⅱ今井優子選手（千葉）

「今回はメンバーが揃っていて、優勝できるチャンスだと思っていました。自分は団体戦が好きなので自分の力以上のものが出ました。先鋒の角田は学生で、人見知りの性格だったので、恋バナとかして仲良くなることから始めて、とてもいいチームワークで大会に臨めました」

て優勢勝。中堅戦は開始29秒、場外
際で神奈川・尾方が大外刈を豪快に
決めて神奈川がリードを広げる。

後がない千葉は副将・村田が必死
に攻めるが、神奈川・春日もこれを
よく凌いで試合は引分。神奈川が優
勝を決めた。大将戦も引き分けて2
―0で神奈川が2年ぶり9度目の優
勝を果たした。

●優勝Ⅱ高橋洋樹監督（神奈川）

「ほっとしました。初戦の広島戦が
一つの山場でしたが、なんとか勝っ
てくれましたね。今回の優勝はチー
ムの総合力の勝利だと思います。前
の二人は2年生なので来年も優勝で
きるように頑張ります」

■少年女子

成年女子と同様の形式で行われ
た。準決勝進出は東京、茨城、埼玉、
長野の4チーム。

第1試合は東京対茨城。先鋒戦を
引き分けると、中堅戦は東京・森田
に指導が3つについて、茨城の勝ち。
東京の大将はシニアで活躍する朝比
奈。朝比奈は開始早々、払腰で一本
を奪い、逆転で決勝進出を決めた。
第2試合は埼玉対長野。埼玉は先



少年女子決勝大将戦＝朝比奈（奥）対富田



少年女子優勝＝東京都

鋒の川辺が横四方固に抑え込まれて
一本負したが、中堅の安が長野・津
金から技有を奪って優勢勝。大将の
富田は長野・出口を相手に大内返で
一本を奪って、決勝へ駒を進めた。

▼決勝

東京 2―0 埼玉

中村くるみ◎優勢勝 川辺彩香

西尾直子 引分 安 沙好

朝比奈沙羅◎合技 富田若春

先鋒戦、東京・中村は場外際で埼
玉・川辺の内股を組み止めるとその
まま押し倒して有効を奪う。中村は
そのリードを守って優勢勝。中堅戦
は互いに積極的な技を出し合うがポ
イントにはいわずに引分。大将戦

は東京・朝比奈が猛攻を仕掛けるが
埼玉・富田もよく凌ぐ。残り30秒と
なると、朝比奈が膝車（技有）から
横四方固に抑え込むと、富田の抵抗
むなしく合技一本とし、東京が優勝
を果たした。

●優勝Ⅱ酒井健弥監督（東京）

「朝比奈は高校生のレベルをはるか
に越えてますね。しかし前二人も頑
張ってくれました。チームワークが
よく全員が実力以上の力を出せた
と思います」

●優勝Ⅱ朝比奈沙羅選手（東京）

「怪我をしていて、この大会が復帰
戦でしたが、みんなのおかげで優勝
できて嬉しいです。他の二人には『自

分が取り返せる範囲だったら必ず取
り返す』と言っていたんですが、そ
れ以上に頑張ってくれました。今日
は自然に技が出て、いい感じでした」

【大会結果】

▼成年男子Ⅱ①千葉県②宮崎県③東

京都④神奈川県⑤三重県、新潟

県、愛知県、兵庫県

▼成年女子Ⅱ①千葉県②静岡県③東

京都④山梨県⑤愛媛県、栃木県、

兵庫県、宮城県

▼少年男子Ⅱ①神奈川県②千葉県③

東京都④京都府⑤長崎県、愛媛

県、大分県、鹿児島県

▼少年女子Ⅱ①東京都②埼玉県③長

野県④茨城県⑤栃木県、福岡県、

大阪府、熊本県

▼総合成績Ⅱ①東京都②千葉県③神

奈川県④宮崎県⑤京都府⑥埼玉

県、静岡県⑧兵庫県、愛媛県



全日本学生柔道体重別選手権大会

男子は7階級全て初優勝

平成25年度全日本学生柔道体重別選手権大会（男子32回・女子29回）は9月28日・29日の2日間、日本武道館で開催され、男女7階級で行われた。

男子決勝

▽60kg級

前回準優勝の志々目徹（日本体育）と前回大会3位の澤田涼（国士館）との対戦。中盤で澤田に2回目の指導が与えられ、志々目がポイントでリードする。その後、澤田も積極的に攻めるが、時間終了となり、志々目が初優勝に輝いた。

●優勝Ⅱ志々目徹選手（日本体育）

「目標としていた大会なので優勝できて嬉しいです。今後は、世界で戦っていける選手になりたいです」

▽66kg級

決勝は六郷雄平（明治）と本間大地（東海）が対戦した。開始早々に六郷が大内刈で有効を先取。その後、六郷は指導を2回与えられるが、中盤、小内刈が技有となりポイントを重ねる。本間も大内返で有効を奪うも、試合終了。六郷が初優勝

を手にした。

▽73kg級

決勝では安昌林（筑波）と橋本壮市（東海）の対戦となった。両者指導1の同ポイントのまま延長戦へ。延長戦開始直後、安の背負投が技有となり試合終了。安が初優勝を決めた。

▽81kg級

渡邊勇人（東海）と永瀬貴規（筑波）が決勝で対戦した。渡邊に2回の指導が与えられ、永瀬がポイントでリードするも、渡邊が崩壊姿勢を決めて一本勝。渡邊の初優勝となった。

●優勝Ⅱ渡邊勇人選手（東海）

「優勝できて嬉しいというよりは、今まで支えてくれた人たちに恩返しができるほっとしています。」

東京でのオリンピック開催も決めたので、それまでには、日本一強くなり、オリンピックで優勝したいです」

▽90kg級

決勝は長澤憲大（東海）と地崎亮



81kg級＝渡邊（上）対永瀬。渡邊が崩壊姿勢で一本勝



100kg級＝レイズ（左）対高橋



100kg超級＝寺崎（右）対田中



73kg級＝安（下）対橋本。安が背負投で技有を奪う

祐（國學院）の対戦となった。ケンカ四つとなり引手の攻防が続く中、地崎に指導1が与えられ、長澤はポイントでリードする。両者攻めきれずに時間終了となり、ポイント差で長澤が初優勝を手にした。

▽100kg級

決勝はレイズカヨル（日本）と前回準優勝の浅沼拓海（国士館）を準決勝で破った高橋良介（明治）との対戦となった。序盤、レイズに指導1が与えられる。高橋は攻め続けるも、レイズに奥襟を掴まされると、後

ろに引いてしまい、中盤以降3回の指導が重なり、レイズがポイントでリード。その後は両者ポイントなく、レイズが初優勝を決めた。

▽100kg超級

寺崎達也（明治）と田中大貴（国士館）が決勝で対戦した。寺崎に指導2が与えられ、田中は試合を優勢に進めるが、寺崎は隅返で技有を奪い、ポイントでリードする。その後も寺崎に3つ目の指導が与えられるが、試合終了。寺崎が初優勝を飾った。

●100kg超級優勝Ⅱ寺崎達也選手（明治）

「今まで全日本クラスの大会で入賞したことがないので、とても嬉しいです。監督は仕事もあるのに、時間を割いて指導してくださり、本当に感謝の気持ちで一杯です。次戦の講道館杯では優勝したいと思います」

【男子結果】

- ▽60kg級①志々目徹（日本体育）②澤田涼（国士館）③松崎裕毅（帝京科学）、田路悟士（日本体育）
- ▽66kg級①六郷雄平（明治）②本間大地（東海）③江藤康太（東海）、宮崎廉（桐蔭横浜）
- ▽73kg級①安昌林（筑波）②橋本壮市（東海）③中村一那（帝京科学）、三浦健寛（国士館）
- ▽81kg級①渡邊勇人（東海）②永瀬貴規（筑波）③山本幸紀（筑波）、豊田純（日本体育）
- ▽90kg級①長澤憲大（東海）②地崎亮祐（國學院）③横田雄斗（国士館）、釘丸太一（国士館）
- ▽100kg級①レイズカヨル（日本）②高橋良介（明治）③浅沼拓海（国士館）、稲田基（日本）
- ▽100kg超級①寺崎達也（明治）②田中大貴（国士館）③福本翼（中央）、黒岩貴信（筑波）

女子決勝

▽48kg級

2年前の優勝者・遠藤宏美（筑波）と、前回優勝者の山崎珠美（山梨学院）を準決勝で破った橘園舞（国士舘）との決勝戦となった。遠藤に指導1で、橘園はポイントでリードする。その後、両者低い姿勢からの組、橘園の足が開いたところを、遠藤が大内刈を仕掛け、技有ポイントを奪い、優勢勝。2年ぶり2回目の優勝に輝いた。

▽52kg級

決勝は角田夏実（東京学芸）と田中千曉（龍谷）との対戦となった。互いに素早く攻めるが、田中に指導1が与えられ、角田がポイントでリードする。終盤、田中が立ち上がりとした瞬間、角田の得意とする腕挫十字固が決まり一本勝。初優勝を決めた。

●優勝Ⅱ角田夏実選手（東京学芸）

「優勝できるとは思っていませんでした。周りの方に盛り上げていただき、緊張しないで試合に臨めたのが勝因だと思います」

す。講道館杯も気持ちを切らさずに頑張りたいと思います」

▽57kg級

柳楽祐里（国士舘）と前回3位の金子瑛美（埼玉）が決勝で対戦した。柳楽は一瞬の隙をついて相手の後ろに回り、裏投で有効を奪う。その後、再び豪快な裏投を仕掛け、見事に一本を決めた。柳楽は準決勝、決勝と裏投で一本勝を収め、初優勝を勝ち取った。

▽63kg級

2年前の3位・西川真帆（龍谷）と、伊勢崎詩乃（帝京科学）との決勝戦となった。

両者の身長差は18cm。西川は長身を生かして伊勢崎の背中を掴み、技を仕掛ける。一方、小柄な伊勢崎は引くことなく積極的に足技を仕掛け、攻める。両者同ポイントのまま延長戦へ。延長戦開始直後、西川の大外刈が決まって一本勝。初優勝に輝いた。

●優勝Ⅱ西川真帆選手（龍谷）

「優勝できてとても嬉しいです。強い気持ちで臨んだので優勝できたの



63kg級＝西川（右）対伊勢崎



57kg級＝柳楽（左）対金子。柳楽が裏投で一本勝



52kg級＝角田（右）対田中。角田が腕挫十字固で一本勝



70kg級＝ヌンイラ（奥）対高橋



78kg超級＝井上（右）対町

だと思えます。連覇を目指して頑張ります」

▽70kg級

決勝はヌンイラ華蓮対高橋ルイ（ともに環太平洋）の3年連続の対戦となった。高橋は序盤に指導1が与えられ、ヌンイラがポイントでリードする。両者積極的に攻めるも技が決まらず、ヌンイラがそのままリードを守りきり、3連覇を決めた。

●優勝Ⅱヌンイラ華蓮選手（環太平洋）

「1年生の時から打込みパートナーとして、お互い切磋琢磨してきた

相手と3年連続で決勝の舞台に立てたことが嬉しいですよ」

▽78kg級

1年生ながら勝ち上がってきた梅木真美（環太平洋）と前回3位の重永聡美（広島）が決勝で対戦した。梅木は払腰の技有を奪うと、その後、横四方固の合技で一本を決め、初優勝に輝いた。

▽78kg超級

2年前の3位・井上愛美と前回3位の町純香の山梨学院同士の決勝

戦。両者に指導が与えられた後、中盤、2回目の指導は町だけに与えられ、井上はポイントでリードする。その後、井上の払巻込が有効となり、試合終了。井上が初優勝を手にした。

【女子結果】

▽48kg級①遠藤宏美（筑波）②橘園舞（国土館）③山崎珠美（山梨学院）増田沙由美（山梨学院）

▽52kg級①角田夏実（東京学芸）②田中千曉（龍谷）③金田結花（帝京）飯塚貴恵（東京学芸）

▽57kg級①柳榮祐里（国土館）②金子瑛美（埼玉）③安田梨乃（帝京）田中友里（環太平洋）

▽63kg級①西川真帆（龍谷）②伊勢崎詩乃（帝京科学）③名村友薫（金沢学院）佐野賀世子（山梨学院）

▽70kg級①ヌンイラ華蓮（環太平洋）②高橋ルイ（環太平洋）③前田奈恵子（帝京）千葉英里子（環太平洋）

▽78kg級①梅木真美（環太平洋）②重永聡美（広島）③西田香穂（山梨学院）日高美沙希（大阪体育）

▽78kg超級①井上愛美（山梨学院）②町純香（山梨学院）③藤原恵美（筑波）井坂希望（山梨学院）

待望の 単行本化 嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする 日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



柔道の国際化

— その歴史と課題 —

講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。
数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの、先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

(四六判・上製・552頁)

財団法人講道館図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



第1章 普及への意思

柔道史の原点

欧州教育事情視察

第2章 海外への進出

米国大統領の入門

新大陸へ派遣第2号

異種格闘技に生きた前田光世

英国柔道の基礎―武道会

武道会を訪れた嘉納と高弟会田

小泉が語る英国柔道史

仏蘭西への道

メトード・カワイシとは何か

駐仏日本国大使 杉村陽太郎

続々と仏蘭西へ

海外より見た柔道―独逸通信

東洋への進出

異文化理解の容易な道

第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜

嘉納逝き連盟成らず

欧州から国際柔道連盟の結成

講道館長、国際柔道連会長に就任

世界柔道選手権大会開催

東京五輪招致成功

東京五輪と正式種目柔道

パリの仇

体重別に勝ち、無差別に散る

第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進

変わり行く柔道

不易流行

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

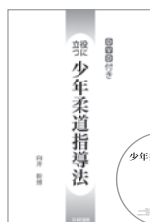


BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

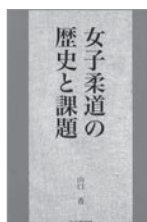


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

（A5判・並製・DVD付・414頁）



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学大学院准教授

山口 香 著

（四六判・上製・412頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

（四六判・上製・310頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

（四六判・上製・292頁）



成年男子決勝先鋒戦＝川崎（右）の小手が決まる

第68回国民体育大会剣道競技会

成年男女、少年男子で 開催地・東京が優勝

少年女子は岐阜が連覇

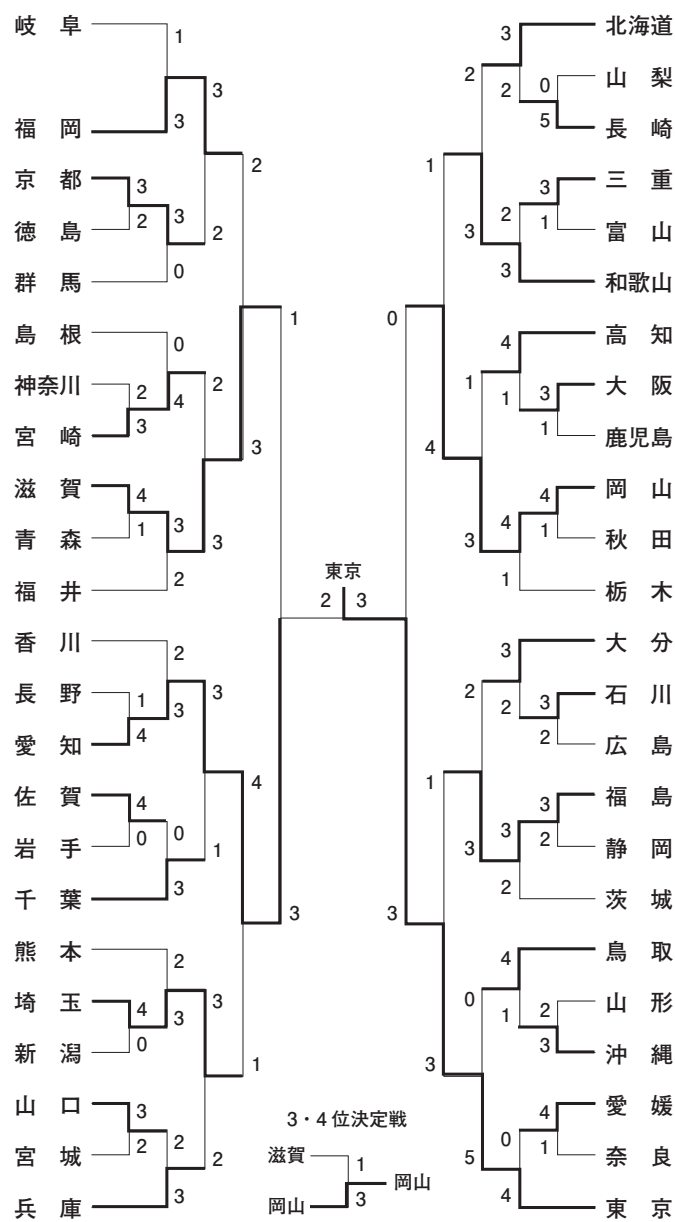
第68回国民体育大会剣道競技会（主催＝日本体育協会、文部科学省、東京都、全日本剣道連盟、足立区）は、9月29日～10月1日の3日間、東京・足立区の東京武道館で開催された。競技は成年男子、成年女子、少年男子、少年女子の4つに分かれて、それぞれトーナメント方式の団体戦で行われた。最終日には、三笠宮瑤子女王殿下がご臨席され、成年男子の試合をご観覧になった。

各都道府県代表の精鋭たちによる白熱した戦いの結果は、成年男子、成年女子、少年男子で、地元・東京が優勝。少年女子は、前年優勝・岐阜の連覇となった。そして、総合優勝は、開催地である東京が勝ち取った。



総合優勝した東京

10月1日



成年女子

9月29日

16チームが出場。準決勝には、岐阜、東京、鹿児島、大阪が駒を進めた。

◇準決勝 東京3―0岐阜

先鋒戦は東京・今村が小手で1本勝ち。中堅戦でも東京・小池が延長戦で面を奪い、東京の決勝進出を決めた。東京は大将戦でも島村が面、胴で2本勝ちして、結果は3―0となった。

◇準決勝 大阪2―1鹿児島

先鋒戦、鹿児島・和田が女子選手権者の大阪・山本から面を奪って先制するも、中堅戦では大阪・畠中が

2本勝ち、大将戦でも大阪・石田が延長戦で試合を決めて、大阪が逆転勝利となった。

◇決勝 東京2―1大阪

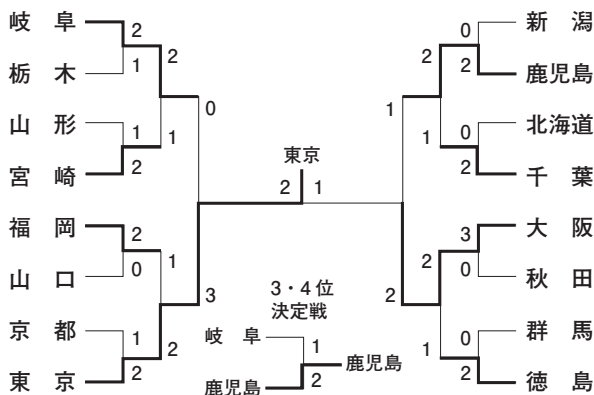
先鋒戦は時間内に勝負がつかず、延長戦の末、東京・今村が面を奪って先制する。続く中堅戦も延長戦にもつれこみ、大阪・畠中が小手を決めて1―1の同点に持ち込む。大将戦、試合終盤に東京・島村が突きを決め、その後は両者ともに決め手のないまま時間となり、東京が4年ぶり3度目の優勝を手にした。



決勝大将戦＝島村(右)対石田

◎東京・大将Ⅱ島村百重選手

「日々の努力が実を結んだのかなと思います。それから、たくさんの人に支えてもらったことが大きかったですね。このチームでの出場が決まったのは8月ですが、普段から警視庁と一緒に練習をしている仲間なので、大丈夫だと思っていました」



少年男子

9月30日

16チームが出場。準決勝には福岡、栃木、東京、長崎が勝ち上がった。

◇準決勝 福岡5―0栃木

先鋒戦、栃木・小池が面を先取すると、福岡・鴨川も面で取り返す。同点のまま終了となり、延長で鴨川が面を決める。次峰戦では福岡・安藤が2本勝ち。そして中堅戦で福岡・今村が延長で面を奪って勝ち、福岡の決勝進出が決まった。その後、副

将、大将も福岡が勝ち、結果は5―0の圧勝。

◇準決勝 東京3―1長崎

先鋒戦では、長崎・牧島が面で勝って先制するが、東京の次峰・阿部と中堅・平山が、それぞれ2本勝ちして逆転する。そして副将戦で、東京・重黒木が胴を奪って決勝進出を決めた。なお、大将は引き分けた。

◇決勝 東京3―1福岡

先鋒戦は時間内に勝負がつかず、

少年女子

9月30日

16チームが出場。準決勝進出チームは岐阜、東京、新潟、埼玉。

◇準決勝 岐阜4―0東京

岐阜は、先鋒・片山が延長での小手によって先制すると、次峰・三宅は胴で、中堅・小角は小手でそれぞれ1本勝ちして東京を破り、決勝進出を決めた。副将は引き分け、大将戦では岐阜・乗田が面を2本奪って勝ち、結果は4―0。

◇準決勝 埼玉3―2新潟

先鋒戦は、新潟・河田、埼玉・駒林が1本ずつの同点で延長となり、河田が再び胴を決める。次峰戦は埼玉・岡崎が面で1本勝ち。さらに埼玉は中堅・辻本が胴、面の2本勝ちで逆転。すると新潟の副将・大塩が延長で面を奪って、勝負は大將戦へ。大將戦は時間内に勝負がつかず、延長開始間もなく、埼玉・端が面を決めて、埼玉が決勝に駒を進める。

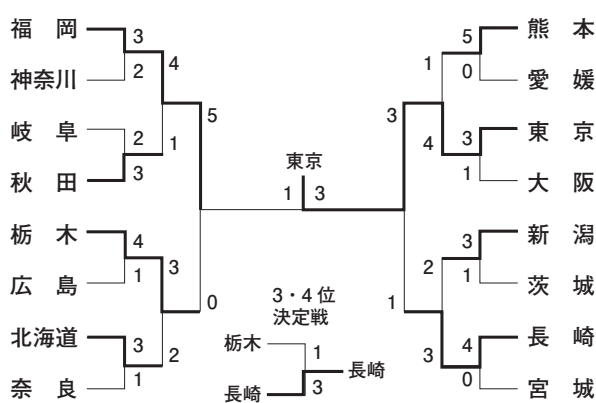
延長で東京・津田が胴を決める。続く次峰戦、東京・阿部が面を2本奪って、2―0。負けられない福岡は中堅の今村がはじめに面を取る。その後、胴を奪われるも、延長戦で面を決め、2―1とする。副将戦、東京・重黒木が、まずは鏑迫り合いからの引き面を決める。重黒木はさらに小手で2本目を奪い、東京の初優勝が決まった。なお、大將は引き分けて結果は3―1。

気負いしないで戦えたのが良かった。決勝は先鋒、次峰の勢を見て、大丈夫だろうと思いました。大將はインターハイ個人チャンピオンという安心感もありましたからね」

◎東京・副将Ⅱ重黒木俊介選手

「とても嬉しいです。決勝は他の大会で負けた相手だったので、自分から攻めて思い切りいききました。大將に佐々木が控えているので、自分が負けても大丈夫という気持ちで戦えました」

「とても嬉しいです。決勝は他の大会で負けた相手だったので、自分か



決勝先鋒戦Ⅱ東京・津田(右)が胴を狙う



◇決勝 岐阜3―2埼玉

先鋒戦は、岐阜・片山が面を取するも、埼玉・駒林が面を2本取って埼玉が勝つ。次峰戦は、岐阜・三宅が面、小手の2本勝ち。中堅戦、勝負がつかず延長となり、埼玉・辻本が面を決めて再び埼玉がリード。副将戦では延長の末、岐阜・長田が面を奪って大将に繋ぐ。

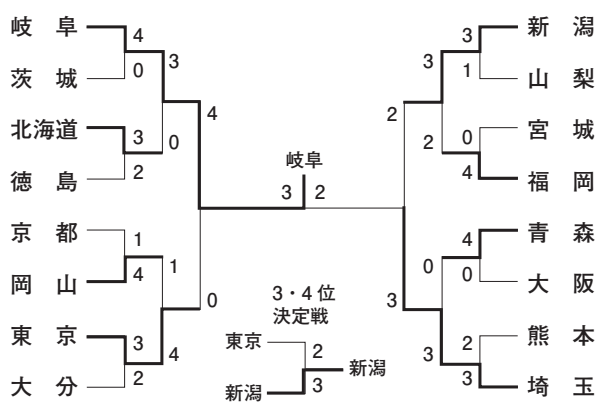
大將戦、試合開始から1分半、岐阜・乗田が面で一本を奪う。そして再開直後、再び面を決めて、岐阜が2年連続2回目の優勝を手にした。

◎岐阜・谷垣光太郎監督

「決勝は2年生2人が守りに入った試合になってしまい、危なかったのですが、3年生がこれまでやってきたことを全て出し切って、乗田に繋いで勝つというこのチームらしい試合の仕方ができました」

◎岐阜・大将Ⅱ乗田美紀選手

「みんなが試合を繋いでくれたので、絶対に勝とうと思いました。みんな同じ高校の仲間で、先輩・後輩関係なく意見を言い合えるチームの雰囲気良かったです」と



決勝大将戦Ⅱ岐阜・乗田(左)の面が決まる



◆全日本実業団剣道大会◆

NTTが実業団日本一に輝く

第56回全日本実業団剣道大会（主催＝全日本実業団剣道連盟）は、9月23日に日本武道館で開かれ、全国から336チーム（前回より11増）が集まり、争われた。

決勝は、NTTと西日本シティ銀行（本店）が対戦し、勝者数は2―2で同点だったものの、本数差（2本差）によりNTTが勝利。NTTグループとしては7年ぶり4回目の優勝を果たした。

試合は、5人制の団体戦で行われ、試合時間は1回戦から準々決勝までが3分間、準決勝と決勝は4分間で、時間内に決しない場合は引き分けとした。また、チームの勝敗は勝者数により決せられ、勝者数が同数の場合は勝本数で、さらに勝本数が同数の場合は、時間無制限による代表戦（二本勝負）で争われた。

（写真下）決勝、NTT・大将の下村（右）が小手を決める
（写真左）大一番に勝利した下村を迎えるNTTチーム





開会式

◇準々決勝

準々決勝に進んだのは、六回戦で前回優勝のパナソニック（ES本社）を降した三井住友海上（本店）、東レ（研究所）、日新電機、西日本シテイ銀行（本店）、NTT、ベアハグ（本店）、伊田テクノス（本社）、日本通運（本社）。

三井住友海上対東レは、代表戦までもつれ、三井住友海上・鈴木悠平が東レ・俣野建詞を小手で退け、チームの勝利を決めた。

日新電機と西日本シテイ銀行の対戦は、西日本シテイ銀行が先鋒から副将まで連続で勝利し、準決勝進出。NTT対ベアハグは、中堅戦が終

わってベアハグが2-0とリード。しかし、NTTの副将・大將が共に二本勝ちして2-2と並び、本数差（1本差）でNTTが辛勝した。

伊田テクノスと日本通運の対戦は、日本通運が先鋒・次鋒で勝利。中堅・副将で引き分けとなり、日本通運の準決勝進出が決まった。

◇準決勝

西日本シテイ銀行 2-0 三井住友海上

甲斐勇太 × 山田健太郎

○内野辰彦 ドー 石井将勝

渡辺雄太 ×× 鈴木悠平

浜地佳祐 × 井口 亮

○小野公次 メー 高村泰央

先鋒戦は引き分け。次鋒戦は、西

日本シテイ銀行・内野が抜き胴で一本勝ちした。中堅、副将は引き分け。

大將戦は時間終了間際に、西日本シテイ銀行・小野が三井住友海上・高村の小手をすかして面を決めた。

NTT 3-0 日本通運

○齊藤将吾 ×コー 松田 悠

○岡 晋輔 メー 中石吉郎

阿南隼人 × 紺野 剛

竹越 充 コ× 柴田優貴

○下村和弘 トコメ 黒木哲也

先鋒のNTT・齊藤は、開始早々に面と小手を続けて決めて勝利。次鋒戦は、NTT・岡が接近戦からの面で一本勝ちした。2-0で迎えた副将戦は、日本通運・柴田が先制するも、NTT・竹越が小手で追い付き、引き分けとなる。この時点でNTTの決勝進出が決まった。



準決勝、西日本シテイ銀行・小野（左）対小野が高村の小手をすかして面を決める



準決勝、NTT・岡（右）対日本通運・松田 接近戦からの面で岡が一本勝ちした

優勝ⅡNTT



◆決勝

NTT 2-2 西日本シティ銀行

(本数差(2本差)によりNTTの勝利)

○齊藤将吾(コメー 甲斐勇太

岡 晋輔 ーコ 内野辰彦○

阿南隼人 × 渡辺雄太

竹越 充 (メー)ドド 浜地佳祐○

○下村和弘 コー 小野公次



(写真右) 先鋒戦、NTT・齊藤(右)が引き面を決めて勝利し、幸先よいスタートを切る

(写真右下) 次鋒戦、西日本シティ銀行・内野(左)が近間からの小手で一本勝ち

(写真下) 副将戦、西日本シティ銀行・浜地(右)が胴を決めてNTT・竹越に逆転勝利。西日本シティ銀行が、一時リードを奪った



好評発売中

小笠原 清忠

(弓馬術礼法小笠原教場)
(三十一世宗家) 著

武道の礼法

相手に誠心が響く礼法を小笠原流礼法宗家が
直々に指南する、武道関係者必読の一書。



四六判・上製・278頁

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp>



大会風景

先鋒戦、NTT・齊藤は、西日本
シテイ銀行・甲斐が間合いを詰めた
ところに小手を放って先制。さらに
齊藤は、引き面を決めて勝利した。

次鋒戦は、西日本シテイ銀行・内
野が近間からの小手で一本勝ちし、
タイに持ち込む。中堅戦は引き分
け。副将戦は、NTT・竹越が面で
先制するも、西日本シテイ銀行・浜
地が鍔迫り合いからの引き胴で追い
つく。さらに浜地は竹越の面に胴を
合わせて二本勝ち。西日本シテイ銀
行が勝ち星1つリードした。

大將戦、2分過ぎにNTT・下村
が西日本シテイ銀行・小野の出端に
小手を決める。その後、お互いに探
り合う展開の中、追いつきたい小野

が遠間から面に跳ぶ。しかし、下村
はこれを小手に返して勝負あり。

勝ち星で2―2と並んだが、下村
の二本勝ちが効いて、本数差(2本
差)でNTTの優勝が決まった。

◎優勝ⅡNTT・高井田誠監督

「常に自分自身とメンバーを信じ、
チームで戦おうというのが、皆の合
い言葉でした。諦めなかつたのが今
日の結果に繋がったのだと思いま
す。これからも基本の稽古と精神面
の錬磨に力をいれて臨みます」

◎最優秀選手賞ⅡNTT・下村和弘選手

「やるしかない」という気持ち
を常に持って戦いました。チームのキ
ャプテンになって2年目です。普段
から部員全員で勝ち取ろうと言っ

きました。いい伝統を作って、長く
活躍できるチームにしたいです」

【大会結果】

▽優勝ⅡNTT

▽2位Ⅱ西日本シテイ銀行(本店)

▽3位Ⅱ日本通運(本社)

三井住友海上(本店)

▽敢闘賞Ⅱ東レ(研究所)、日新

電機、ベアハグ(本店)、伊田テ

クノス(本社)

心技体 人を育てる総合誌

月刊 武道



日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



写真提供 剣道時代

剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠 敬藏 著

(四六判上製 344頁)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

（四六判・上製・564頁）



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

（四六判・上製・346頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

（四六判・上製・386頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

（四六判・上製・268頁）



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

（四六判・上製・274頁）

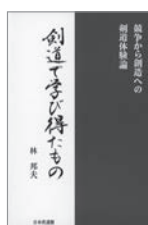


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

（四六判・上製・344頁）



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

（四六判・上製・298頁）



成年男子決勝大將戦＝熊本・角（左）が上胴に飛び込む

第68回国民体育大会銃剣道競技会（主催＝日本体育協会、文部科学省、東京都、全日本銃剣道連盟、練馬区）は9月29日～10月1日の3日間、東京・練馬の練馬区立総合体育館で行われた。

大会は成年男子と少年男子で争われ、成年男子は、熊本県が決勝で東京都を破り史上初となる三連覇を達成した。少年男子は、新潟県が決勝で北海道を2―1で破って、4年ぶり2度目の優勝を果たした。なお、成年と少年の順位に応じて与えられる得点によって決められる総合優勝は、成年準優勝、少年6位の東京都が獲得した。

試合は3人制の団体戦で行われ、試合時間は5分。時間内に勝敗が決しない場合は2分間の延長戦を行い、それでも決しないときは旗判定によって決した。ただし、決勝戦のみ合計3回まで延長戦を行うこととした。

■成年男子

三連覇を目指す熊本は、初戦の2回戦で石川を、3回戦で愛知をそれぞれ2―1で破ってベスト8進出。

準々決勝では鹿児島を相手に2―1で勝って準決勝進出を決めた。

昨年準優勝の長崎は準々決勝で、今年の選手権者・日高雅光を擁する福岡に3―0で完敗し、姿を消した。

1回戦から登場した地元・東京は抜群の安定感でベスト4入り。また、埼玉が準決勝進出を果たした。

▼準決勝

東京 2―1 埼玉

地元と隣県の対戦ということもあって、互いに応援団も多く、技の応酬のたびに大きな拍手と声援が送られた。

先鋒戦は、東京・川村が終盤に埼玉・木村から下胴を奪って一本勝。埼玉は中堅の俵山が東京・根本からノドで先制する。しかし、終了間際、根本の狙い澄ました小手が見事に決まってそのまま時間。延長1分、俵山は近間からの離れ際に上胴を一突き。勝負を大将戦へ繋いだ。

大将戦は延長に突入。東京・松野は埼玉・田上の出端を上胴に押さえつけて試合を決めた。

熊本 3―0 福岡

初戦から全勝の熊本先鋒の田尻と中堅の原田はこの試合でも相手を寄



成年男子決勝中堅戦＝熊本・原田（左）が上胴を決める



成年男子決勝先鋒戦＝熊本・田尻（左）が上胴を攻める

第 68 回国民体育大会銃剣道競技会

成年男子 熊本が 3 連覇

少年男子は新潟が 4 年ぶり 2 度目の優勝

中堅戦は中盤、根本が上胴を決めるが、その後、根本が足を負傷。その影響があつてか、時間内に原田が上胴を奪って追いつくと、試合は延長へ。2 度の延長を挟んだ再々延長戦の終了間際、原田が上胴に飛び込むと、旗が三本揃って、熊本が大将戦へ繋いだ。

▼決勝
熊本 2-1 東京
田尻竜三 ①上 川村貴嗣
原田将興 上上① 根本努
角康大 ① 松野和樹
先鋒戦開始 36 秒、川村が上胴で先制すると、4 分には田尻の剣を払って上胴を決めて二本勝し、東京が先制した。

せ付けることなく、落ち着いた試合運びで星を連取。一気に試合を決めた。熊本の大將は選手権大会常連の角だったが、ここまで 3 戦全敗の絶不調。福岡の大將は選手権者の日高。日高は得意の下胴を狙い、角もそれを織り込み済みで時間内に勝敗がつかず。延長 1 分、近間の攻防の中で角は日高の一瞬の隙を逃さず、突いた上胴が見事に決まって、この日ようやく一勝を上げた。



成年男子準決勝中堅戦＝熊本・原田（左）対福岡・竹中



成年男子準決勝大将戦＝東京・松野（左）対埼玉・田上

●準決勝



準々決勝まで全敗だった熊本大将・角（右）は準決勝で選手権者・日高から勝利をもぎ取った（写真：準決勝福岡戦で日高から上胴を奪ったところ）

熊本中堅・原田（左）は全試合で勝星を上げ、チームの優勝に貢献した（写真：2回戦石川戦）

大将戦、三連覇達成目前の熊本・

角と地元の大声援に押される東京・松野の対戦。互いに気迫溢れる技の応酬を展開。角の突きを松野が払えば、松野の剣を角が捌く。開始3分、角は松野を場外際まで追い詰めると、すかさず上胴に剣を飛ばす。

松野はこれに反応できず、角の残心に審判の旗が三本揃った。松野は残り時間、懸命に攻めるが、ついに角を捕えきれず、2―1で熊本が見事に三連覇を達成した。

●優勝Ⅱ内田巳毅雄総監督（熊本）

「今日は原田、田尻の頑張りが大きかったですね。昨年は二本勝をする試合も多かったのですが、今年は研究されていて、厳しい試合が続きました。選手たちは自衛官なので転属もあり、今年が最後というつもりで大会に臨みました。もしメンバーが変わったとしても四連覇を狙いたいと思います」

●優勝Ⅱ田尻竜三選手（熊本）

「毎年先鋒が全勝して優勝していましたが、今年は大事なところで負けてしまいました。しかし、信頼できる仲間がいて嬉しいですね。中堅戦で原田が勝ったときは嬉しさのあま

り、少し涙が出ました」

●優勝Ⅱ原田将興選手（熊本）

「一昨年、昨年と先鋒、大将に頼りっぱなしでしたが、今年はようやく仕事ができました。このチームは本当に最高のチームだと思います」

●優勝Ⅱ角康大選手（熊本）

「準決勝まではすべて前二人で決まっていたので仕事がありませんでした。風邪気味だったんですけど、ドーピングの関係で薬も飲めなかったんで調子は悪かったです。普段は所属が違うので敵同士ですが、団体ではいつも心強い仲間です。今年の選手権を取った日高選手との試合は気持ちが高まりました」



成年男子優勝＝熊本県（左から田尻・原田・角・内田総監督）

■少年男子

昨年の決勝を争った新潟と神奈川が1回戦で激突した。試合は新潟が先鋒、中堅で勝負を決め、2―1で昨年の雪辱を果たした。新潟は2回戦、準決勝をともに3―0で危なげなく勝ち上がると、決勝では北海道と対戦した。

先鋒戦、新潟・渡邊は開始1分で北海道・小林から下胴を奪って先制するが、直後に小林が下胴を奪い返す。2分、渡邊は相手の隙を見逃さず、下胴を奪って新潟が先制した。

中堅戦、北海道・福田は上胴で先制すると、2分半には、新潟・高井の突きを福田が払って上胴を決めて、試合を振り出しに戻した。

優勝のかかった大将戦、新潟・大谷、北海道・川崎はともに技を仕掛けるが決め手に欠いて延長戦へ。開始19秒、大谷は川崎が居ついたところを逃さず上胴を決めて、新潟に優勝をもたらした。

●優勝Ⅱ長谷川元監督（新潟）

「今回は隙のないチームができました。うちは後ろに回して勝つスタイルでしたので、決勝は安心して見ていられました。昨年は決勝で神奈川



少年男子決勝大将戦＝新潟・大谷（左）の上脘が見事に決まって優勝を勝ち取った

に敗れましたが、選手たちはベスト4で満足していましたので、気持ちで負けていましたね。今回は初めから優勝を意識して戦っていたので、その違いは大きいです」

●優勝Ⅱ滝沢元気教諭（三条商業高）

優勝した新潟県チームは3人とも三条商業高の生徒。普段、稽古をつけている滝沢教諭に話を聞いた。

「嬉し涙が出ましたね。昨年負けたメンバーがそのまま出ましたので、昨年の経験が活きました。夏には高校生大会を優勝しましたが、油断はできないと思っていました」

大将戦、延長に入るところでは滝沢教諭が観客席から「冷静に」という声をかけた。

「大谷は普段通りやれば負けることではないと思っていたので、声をかけました。選手は3人とも3年生なので、来年はまた新しいチームで臨みます」

●優勝Ⅱ大谷竜輝選手（新潟）

「昨年の雪辱ができました。絶対勝つてやるという気持ちでした。試合は延長に入るまでお互いに同じことを繰り返していたので、最後の上脘は、一か八かでいってみました。旗は



少年男子優勝＝新潟県（左から渡邊・大谷・高井）

上がりましたが、少し甘かったと思います。来年は進学しますが、銃剣道が続けるとしたら新潟県チームの一員として国体に出たいです」

【大会結果】

▼成年男子Ⅱ①熊本県②東京都③埼玉県④福岡県⑤長崎県⑥山形県⑦沖縄県⑧鹿児島県

▼少年男子Ⅱ①新潟県②北海道③岐阜県④岩手県⑤神奈川県⑥東京都⑦香川県⑧京都府

▼総合成績Ⅱ①東京都②熊本県、新潟県④北海道⑤埼玉県、岐阜県⑦福岡県、岩手県

日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ

(B5判・236頁)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう



日本武道館

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

《目次》

序章 武道のすすめ

松永光(日本武道館)/高村正彦(武道議員連盟)/有松育子(文部科学省)

第1章 いざ! 武道の世界へ

第2章 柔道のすすめ

大澤慶己/長谷川博之/腹巻宏一/吉村和郎/山内直人

第3章 剣道のすすめ

森島健男/角正武/千田重光/井上茂明/小林知洋

第4章 弓道のすすめ

森永良雄/吉本清信/宇佐美義光/柴田猛/大和田正孝

第5章 相撲のすすめ

塔尾武夫/住吉和則/下村勝彦/安井和男

第6章 空手道のすすめ

金城裕/長谷川伸一/安里廣之/山本英雄/大石武士

第7章 合気道のすすめ

多田宏/磯山博/菅沼守人/珠玖仁

第8章 少林寺拳法のすすめ

合田清一/阿達美恵子/八巻哲/松浦哲也

第9章 なぎなたのすすめ

澤田花江/梶山武子/一川治子/左村美穂子/大津博美

第10章 銃剣道のすすめ

桑原正治/兼坂弘道/遠藤守/石川慎也/北村弘之

第11章 古武道のすすめ

竹内藤十郎(柔術)/笹森建美(剣術)/加藤伊三男(槍術)/小笠原清忠(馬術)

日本武道館の歴史

日本武道館の歴史

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



今、なぜ武道か
—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ:
THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道
子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)

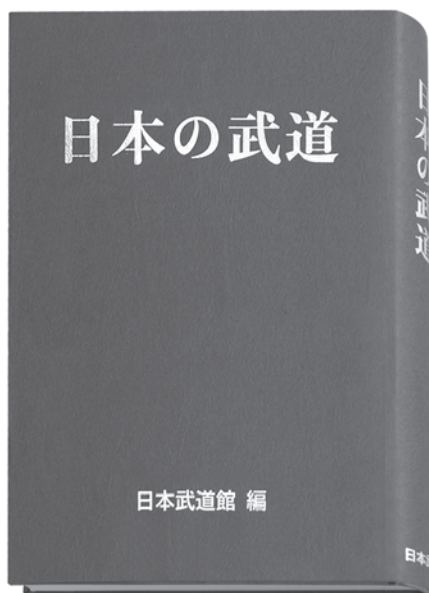


大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法・なぎなた・銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!



(B5判・上製・箱入・526頁)



日本武道館 編

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書
日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

第7回糸東流空手道世界選手権大会

日本は形種目を全制覇

組手は優勝者なし



男子個人形優勝＝大木格選手（スーパーリンペイ）



女子個人形優勝＝清水希容選手（チャタンヤラクーシャンクー）

第7回糸東流空手道世界選手権大会（主催Ⅱ世界糸東流空手道連盟、全日本空手道連盟糸東会）は9月15日・16日の2日間、日本武道館で開催された。

大会は代表選手が優勝を争うシニア大会（組手12種目・形4種目）と自由参加（日本人選手は全日本大会ベスト8以上）のオープン大会（38種目）が行われた。

日本人選手は形競技は男女団体個人のすべてのカテゴリーで優勝したが、組手では金メダルを獲得することではできなかった。

■形

▼男子団体

日本は稲田隆宏、佐尾隆弥、山口航の3選手が出場。決勝でチャタンヤラク・シャンクーを演武し、5―0でチャイニー・ズタイ・ペイを降して、優勝を果たした。

●優勝Ⅱ稲田隆宏選手

「前回も出ましたが、3位となつて、悔しい思いをしたので、今回は非常に嬉しいです。私が最年長（30歳）で二人は23歳ですが、二人とも本当によく稽古をして、3年前より

も成長してくれました。心強い後輩たちです」

●優勝Ⅱ佐尾隆弥選手

「応援してくださる方の期待に応えられてよかったです。前回大会で負けた時に二度はないと思ったので、今回はプレッシャーが大きかったですね」

●優勝Ⅱ山口航選手

「実力以上の力が発揮できたと思います。今までの大会や稽古よりよかったです。次の大会もこの三人で出たいと思います」



男子団体形優勝＝日本（チャタンヤラク・シャンクー）

▼女子団体

日本からは檜山唯、後田麻緒、宇賀神優奈の各選手が出場。順当に勝ち上がる、決勝はチャイニー・ズタイ・ペイを相手にチャタンヤラク・シャンクーで5―0として優勝した。

●優勝Ⅱ檜山唯選手

「出場する大会で良い成績を残すだけではなく、空手道を通じて人間的にも成長していきたいと思います」

●優勝Ⅱ後田麻緒選手

「まだ気持ちの整理ができてなくて、頭が真っ白です。でもいろんな



女子団体形優勝＝日本（チャタンヤラク・シャンクー）

人に感謝しています」

●優勝Ⅱ宇賀神優奈選手

「素直に嬉しいです。自分だけ道場が違いますが、またこのメンバーで試合に出たいです」

▼男子個人

日本からは大木格いぶきと今津誠彌が出場し、決勝で対戦した。大木はスーパージンペイ、今津はウンスーを演じ、5―0で大木が頂点に立った。

●優勝Ⅱ大木格選手

「嬉しいですね。いろいろな形の精度を高めるために今回はスーパージンペイを決勝で打つと決めていました。今は武の部分が出せるように稽古をしています」

▼女子個人

日本人選手は清水希容と梶川凜美が出場し、決勝で対戦。チャタンヤラク・シャンクー対決となり、3―2で清水が世界一となった。

●優勝Ⅱ清水希容選手

「決勝戦という舞台で梶川先輩と対戦するのは初めてです。先輩とは同じ道場で、一緒に稽古をしていますし、憧れの先輩なので、嬉しいです」

■組手

▼団体

団体戦は男子が5人制、女子が3人制で行われた。

日本男子は2回戦で中国と対戦し、2―3で敗れた。決勝でアルジェリアがロシアを降して優勝した。日本女子は準決勝で中国に敗れ、チャイニーズタイペイとの三位決定戦に挑んだが、1―2で敗れ、入賞を逃した。優勝は決勝でアルジェリアを破った中国だった。

▼男子個人

◆-60 kg 級

決勝に船橋武士が進み、バウアンリア（アルジェリア）と対戦し、0―2で敗退した。

●準優勝Ⅱ 船橋武士選手

「応援してくれる子どもたちの声が聞こえましたが、負けてしまつて悔しいです」

◆-67 kg 級

日本からは大嶋幹男と小西輝昌が出場し、共に三位決定戦を勝つて、入賞を果たした。

◆-75 kg 級

日本の小出翔太が決勝に進出し、



男子個人組手-75kg 級決勝＝小出（左）対ラユシュキン

ラユシュキン（ロシア）と対戦。小出は5―4とリードした残り10秒から、中段突きで有効を連取され、逆転で敗退した。

●準優勝Ⅱ 小出翔太選手

「悔しい反面、決勝の舞台に立てた喜びもあります。最後に追いつかれたときに判定になったら不利だと思つたので攻め急いでした」

◆-84 kg 級

杉岡将平が決勝進出を果たしたが、団体戦の反則負けのため、決勝戦に出場することができなかった。

●準優勝Ⅱ 杉岡将平選手

「決勝に立つこともできなかったというのが悔しいです。外国人選手に

対応していくのが大変です」

◆+84 kg 級

日本人選手は不出場。決勝でラミレス（メキシコB）がグインドン（カナダ）を破って優勝した。

▼女子個人

◆-50 kg 級

平林真樹と門屋安里奈が出場し、それぞれ三位決定戦に進出。平林が勝つて、入賞を果たした。

◆-55 kg 級

宮下結衣が決勝進出。3ポイントリードで迎えた残り4秒、上段蹴りをもたらして追いつかれて時間。判定は1―3で準優勝に終わった。

【大会結果】

■形

▼男子団体Ⅱ①日本②チャイニーズタイペイ③メキシコB、香港

▼女子団体Ⅱ①日本②チャイニーズタイペイ③メキシコA、ロシア

▼男子個人Ⅱ①大木格（日本）②今津誠彌（日本）③トバー（メキシコB）、クズネツォフ（ロシア）

▼女子個人Ⅱ①清水希容（日本）②梶川凜美（日本）③ディミトロバ（ドミニカ）、サンチェス（ベネズエラ）

■組手

▼団体

◆男子Ⅱ①アルジェリア②ロシア③チャイニーズタイペイ、中国

◆女子Ⅱ①中国②アルジェリア③ベネズエラ、チャイニーズタイペイ

▼男子個人

◆-60 kg 級Ⅱ①バウアンリア（アルジェリア）②船橋武士（日本）③長谷川裕介（日本）、デュズゲンバイエフ（カザフスタン）

◆-67 kg 級Ⅱ①チェン（中国）②チュゼル（カザフスタン）③大嶋幹男（日本）、小西輝昌（日本）

◆-75 kg 級Ⅱ①ラユシュキン（ロシア）②小出翔太（日本）③黒川大和（日本）、バウアブーブ（アルジェリア）

◆-84 kg 級Ⅱ①アチャチェ（アルジェリア）②杉岡将平（日本）③井上涼（日本）、クイ（中国）

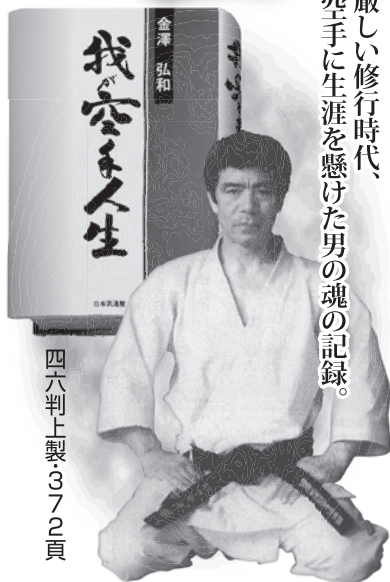
◆+84 kg 級Ⅱ①ラミレス（メキシコB）

我が空手人生

国際松濤館空手道連盟館長

金澤 弘和 著

生いたちから父母の教え、「からて」との出合い、拓殖大学空手部に始まる厳しい修行時代、全日本制覇、海外への普及、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、空手に生涯を懸けた男の魂の記録。



四六判上製・372頁

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp>



日本選手団

●準優勝Ⅱ宮下結衣選手

「C2の反則を3つもらっていたので、攻めにいったところを狙われました。ただすごい経験をさせてもらったので、今後に活かしていきます」

◇-61kg級

山田里奈が三位決定戦に進んだが、敗れて入賞を逃した。優勝はアルジェリアのガズーリが果たした。

◇-68kg級

日本人選手は序盤で敗退。決勝でガフロバ（カザフスタン）がサリナス（メキシコA）に勝って優勝した。

◇+68kg級

日本人選手は不出場。決勝は中国人同士の対戦となり、ゼンがインを降して優勝した。

●日本チーム・矢部満彦糸東会強化部長の話

「国内ではWKFのルールを変えていますが、すぐに統一して行うべきです。ルールは昨年1月に改正されましたが、国内での適用は今年1月からです。外国人選手と1年の差があるわけです。今後は一層、新ルールに対応する練習と実戦経験を積まないといけません」



- ②グインドン（カナダ）③ロギノフ（ロシア）、ゴン（中国）
- ▼女子個人
- ◇-50kg級①リ（中国）②ゴンザレス（グアテマラA）③平林真樹（日本）、チキ（アルジェリア）
- ◇-55kg級①ベナツズウ（アルジェリア）②宮下結衣（日本）③ニウ（中国）、チウ（チャイニーズタイペイ）
- ◇-61kg級①ガズーリ（アルジェリア）②イメルボル（ベネズエラ）③アレオラ（メキシコA）、フランヤ（メキシコA）
- ◇-68kg級①ガフロバ（カザフスタン）②サリナス（メキシコA）③ガルシア（メキシコA）、ロ（チャイニーズタイペイ）
- ◇+68kg級①ゼン（中国）②イン（中国）③クインタル（メキシコA）、ベセーラ（メキシコA）

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(きんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光 日本武道館会長

唐手から空手へ

金城 裕

日本武道館

(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手^{からて}の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。
空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

(四六判・上製・372頁)

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授 菅野 純 著

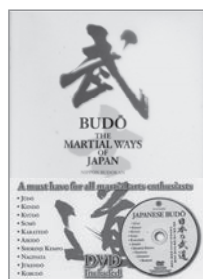


臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。

(四六判・上製・410頁)

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編



武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著
武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

月刊「武道」記者 田谷将俊 著



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)



鹿島新當流剣術

32 流派が、その妙技を武神に奉納

第4回鹿島神宮奉納 日本古武道交流演武大会

第4回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会（主催＝日本武道館・日本古武道協会、協力＝鹿島神宮、後援＝鹿嶋市・鹿嶋市教育委員会・鹿嶋市観光協会・鹿嶋市商工会）は、10月6日、茨城県鹿嶋市の鹿島神宮で開催された。大会には日本各地に伝わる古武道32流派が集まり、武甕槌大神の神前で、その長い歴史と伝統を持つ多様な技を披露した。

たけみかづちのおおかみ

また、前日5日には、術技交流研修会と懇親会が行われ、演武者たちは流派を越えて交流を深め合った。



宝蔵院流高田派槍術



天神真楊流柔術

前日から降り続けた雨も、大会が始まる頃には止み、社殿前に設けられた演武場の周りには徐々に観客が集まり始めていた。

大会は、演武者全員で昇殿参拝を行ってから、午前10時に開会した。三藤芳生日本武道館理事・事務局長の開会宣言に始まり、国歌斉唱の後、主催者を代表して臼井日出男日本武道館理事長・日本古武道協会理事長



臼井日出男
日本武道館理事長



内田俊郎
鹿嶋市長



東俊二郎
鹿島神宮権宮司

が挨拶に立った。

「武神を祀る鹿島神宮において、第4回大会を開催できることを喜ばしく思います。現代武道、古武道を修練することにより、正義感、克己心、勇気あるいは礼節といったものを自ずから学ぶことができます。このことにより、現代日本で失われがちな日本人としての誇り、他者への思いやり、活力を身につけることができます。本日お集まりの皆様には、日本の古武道がしっかりと地域に根づいて発展していくよう、保存・継承に一層のご努力を賜りますようお願い申し上げます」

続いて、来賓の内田俊郎鹿嶋市長が祝辞を述べた。

「本日は32流派の皆様が集まり演武を奉納していただけること、大変嬉しく感激しております。これから大会がずっと続くよう願っております。みなさまには、演武を通じて日本の伝統と心をお伝えいただければ有り難いと思います。本日もこの舞台で、実力を大いに発揮されることを期待いたします」

そして、鹿島神宮権宮司・東俊二郎氏が歓迎の言葉を述べた。

「鹿島神宮は、多くの武芸者がご神前で祈念をして修練を積んだという、独特の文化を育んできました。皆様はその妙技をご奉納いただけることは、この上ない喜びであり、鹿島の大神様も必ずやご覧くださるものと思います。ご見学の皆様も日本の古武道の真髄を十分に堪能いただければと思います。今日のご奉納が皆様方の今後のご精進の糧となり、指導、発展にさらなる力を尽くされますようお願い申し上げます」

閉会式が終ると、早速演武が始まった。鹿島に伝わる鹿島新當流剣術を皮切りに、各流派順番に8分間の演武した。

演武が始まると、演武場脇の客席はいっぱいになり、社殿前にまでカメラやビデオを手にした古武道愛好家が溢れた。また、参拝にやって来る人々も、足を止めて演武に見入っていた。

静かな境内には、木刀などが交わる音、柔術での体が床に叩き付けられる音、気合が響きわたり、一方、居合などの肃々としていながらも迫力ある演武は、境内の厳かな静けさを強調するようだった。



多くの観客が集まった

開始から約4時間、演武は天真正伝香取神道流剣術で幕を閉じた。休憩なしで次々と行われた演武であったが、各流派の多様な技は見る人を飽きさせることなく、最後まで席を離れない観客も多く見られた。

大会は、山田重夫日本古武道協会事務局長の閉会宣言で終了となった。



心形刀流剣術



鐘捲流抜刀術



沖縄剛柔流武術



伯耆流居合術



竹生島流棒術



大東流合気柔術琢磨会



タイ捨流剣法



當田流剣術



気楽流柔術



円心流居合据物剣法



北辰一刀流剣術



関口流抜刀術



直心影流薙刀術



心月無想柳流柔術



荒木流拳法



柳生新陰流兵法剣術



立身流兵法



鞍馬流剣術



無雙直傳笑信流居合術



琉球王家秘伝本部御殿手



為我流派勝新流柔術



神道無念流剣術



無比無敵流杖術



金硬流唐手沖繩古武術



天真正伝香取神道流剣術



長谷川流和術



天然理心流剣術



大東流合気柔術



荒木流軍用小具足

この大会は、「交流」演武大会という名のとおり、流派、演武者同士の交流も目的としている。そのため、演武大会の前日には、術技交流研修会と懇親会が行われた。

術技交流研修会は、鹿島神宮武徳殿で午後3時半に開始された。はじめに、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が主催者として挨拶をした。

「本大会は、武の神様である武甕



三藤芳生
日本武道館理事・事務局長



山谷えり子
日本武道館評議員



天海尉之
鹿島神宮禰宜

槌の神をお祀りする鹿島神宮において、術技の交流研修会、懇親会、演武大会の3部構成で実施します。皆様方の1年間の修練の成果を発揮し、古武道がさらなる進化をとげることを祈念いたします」

続いて山谷えり子日本武道館評議員が来賓祝辞を述べた。

「この鹿島神宮は、素晴らしい歴史を持つ神宮です。中心がしっかりといるからこそ、長く続いていくのだと思います。武道も長い間、日本の先人たちが平和を求め、歩んできた素晴らしい道です。その素晴らしいさを多くの日本中の皆様に感じていただけるよう、私も務めてまいります。本日は皆様のご精進、ご鍛錬を拝見できることを光栄に存じます」

続いて鹿島神宮禰宜・天海尉之氏が歓迎の言葉を述べた。

「各流派の皆様方には、演武をご奉納いただくことに感謝いたします。

この武徳殿は昭和初期に国民の士気を高めるために建設されたものです。本日はここで士気を高め、明日の大会で心と技を神様にお見せいただけるようお願いいたします」

研修会では、道場内を2つの会場



術技交流会の様子

に分けて、各流派が順番に演武を行った。演武会とは異なり、演武が行われる周りをぐるりと囲むのは、観客ではなく他の演武者たち。ともに演武大会に出て、このように間近で他流派の技を見ることは少ないため、技の数々に目を凝らした。また、合気道を修業している山谷評議員も、熱心に見学をしていた。

研修会は、1時間半ほどで終了。着替えや片付けを済ませて懇親会会場に移動した。懇親会では、和やかな雰囲気の中、流派の枠を越えて歓談を楽しみ、交流を深め合った。

【第4回鹿島神宮奉納

日本古武道交流演武会出場流派】

- ① 鹿島新當流剣術
- ② 沖繩剛柔流武術
- ③ 鐘捲流拔刀術
- ④ 心形刀流剣術
- ⑤ 伯耆流居合術
- ⑥ 大東流合気柔術琢磨会
- ⑦ タイ捨流剣法
- ⑧ 宝蔵院流高田派槍術
- ⑨ 竹生島流棒術
- ⑩ 當田流剣術
- ⑪ 円心流居合据物剣法
- ⑫ 気楽流柔術
- ⑬ 関口流拔刀術
- ⑭ 心月無想柳流柔術
- ⑮ 柳生新陰流兵法剣術
- ⑯ 直心影流薙刀術
- ⑰ 北辰一刀流剣術
- ⑱ 荒木流拳法
- ⑲ 鞍馬流剣術
- ⑳ 琉球王家秘伝本部御殿手
- ㉑ 無雙直傳英信流居合術
- ㉒ 立身流兵法
- ㉓ 金硬流唐手沖繩古武術
- ㉔ 為我流派勝新流柔術
- ㉕ 神道無念流剣術
- ㉖ 天神真楊流柔術
- ㉗ 無比無敵流杖術
- ㉘ 大東流合気柔術
- ㉙ 荒木流軍用小具足
- ㉚ 天然理心流剣術
- ㉛ 長谷川流和術
- ㉜ 天真正伝香取神道流剣術

好評発売中

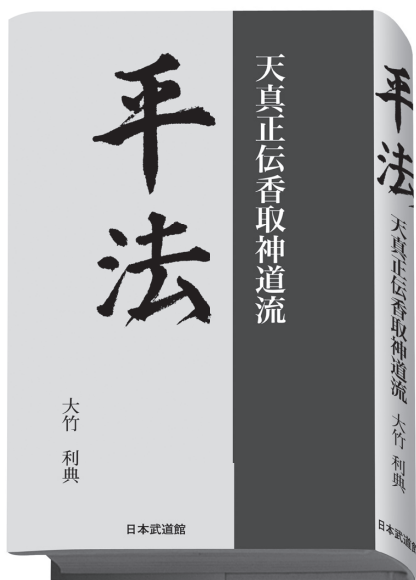
平法

天真正伝香取神道流 師範

大竹利典 著

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

序章	香取神宮御由緒
第一章	歴史篇
第一節	経津主大神の真伝、 「天真正伝香取神道流」
第二章	修行篇
第一節	入門
第二節	林先生に師事
第三節	香取神道流最初の異国の門弟
第四節	流祖生誕六百年記念祭
第三章	技術篇
第一節	剣術
第二節	居合術
第三節	棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
第四節	柔術
第五節	忍術
第四章	軍学兵法篇
第一節	遁甲術
第二節	刀剣と密教
第五章	思想篇—全ての修行者へ
第一節	修行者の心得
第二節	兵法は平法なり —平和を願う偉大なる教え



◎ご注文はインターネット **Amazon.co.jp** にて。全国の書店でもご注文いただけます。
◎お急ぎの方は、下記お問い合わせ先にご連絡ください。**送料無料**で販売いたします。



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



（B5判・上製・箱入・462頁）

古流武術研究家

横瀬

知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介！

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

第1回全国少林寺拳法指導者研修会を開催

全国から71名が参加

第1回全国少林寺拳法指導者研修会（主催Ⅱ日本武道館、少林寺拳法連盟）が、9月13日～15日の3日間 にわたり、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、全国から71名が参加し、開催された。

本研修会は、全国で少林寺拳法を指導する中学校、高等学校の教員及び社会体育指導者を対象に、我が国の伝統と文化に立脚した少林寺拳法の理論と実技研修によって、専門的な知識・技術・指導法の充実を図り、少林寺拳法指導者の養成と資質向上に資することを目的としており、今後毎年開催される。

初日、研修会は午後1時30分に開講し、はじめに主催者を代表して、新井庸弘少林寺拳法連盟会長と、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が挨拶し、続けて講師紹介を行った。

開講式が終わると、記念撮影を経て、特別講師・宗由貴少林寺拳法グ

ループ総裁による「社会貢献・社会に役立つ人づくり」と題した講義が行われた。その後実技研修として「技術Ⅰ 基本・剛法」を実施。夕食後は、班別ミーティングを行い初日の研修を終えた。

2日目は、午前9時から新井会長による「指導者の在り方と技術指導について」と題した講義が行われた。その後「技術Ⅱ 柔法」の研修と続いた。

昼食後、午後1時から特別講師・武藤芳照氏（日体大総合研究所所長）による「スポーツ指導の基本理念と危機管理」と題した講義が行われた。講義後の質疑応答では、参加者から熱中症予防のための水分の取り方についてなど積極的に質疑があった。その後「技術Ⅲ 柔法Ⅰ」及び班別討議を行った。続いて富士見丘中学高等学校教諭の中島正樹氏による「中学校武道必修化について」と題した講義が行われ2日目の研修を終えた。

3日目は、午前9から班別討議の内容発表。次に「技術Ⅳ 剛法・柔法のまとめ」を行ったあと、閉講式をもって、全日程を終了した。

新井庸弘会長による柔法の実技講習





鎮魂行



武藤芳照
日体大総合研究所所長



新井庸弘
少林寺拳法連盟会長



宗 由貴
少林寺拳法グループ総裁



充実した実技研修



技術Ⅰ 基本・剛法の実技研修



講義の様子

【講師】
▽特別講師Ⅱ宗由貴少林寺拳法グループ総裁、新井庸弘少林寺拳法連盟会長、武藤芳照日体大総合研究所所長、中島正樹正範士七段
▽実技講師Ⅱ荒井章士准範士六段
▽助講師Ⅱ谷聡士正拳士五段、田中由喜大拳士五段、石井明仁大拳士五段

◇参加者感想Ⅱ愛媛県・永易雅之氏
（愛媛県立松山工業高等学校教諭）
「今年から少林寺拳法部の顧問をしております。私は初心者で場違いな場所に來たのかと最初は思いましたが、一流の先生方に丁寧に、初歩から教えていただき、感謝しております。とても有意義な研修内容でした。今後の指導に生かしたいと思います」



好評発売中

『人、人、人、
すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に
直接手ほどきを受けた著者入魂の
武道教育論！

可能性の

種子たち

『^{はく}魄』は生きるための生命力——
『^{こん}魂』は人間を善に導く原動力——

魂魄（こころ）が健全に育てば、豊かな感性や
意思力、行動力などが備わり、やがて得るであ
る多くの知識を、智慧とすることができ、
子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種
子の芽生えなのである。

——魂魄（こころ）を育てる——

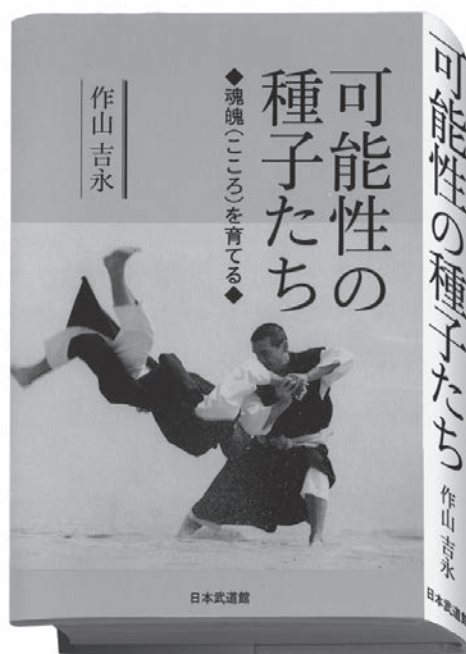
金剛禅総本山少林寺次城高秋道院長

作山吉永 著

（四六判・上製・338頁）

主な目次

- 第1章 少林寺拳法 / 第2章 直心是道場 / 第3章 師事 /
- 第4章 マイ・アメリカ / 第5章 可能性の種子、芽吹く /
- 第6章 嵩山少林寺 / 第7章 魂魄（こころ）を育てる /
- 第8章 新しい扉を開く



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



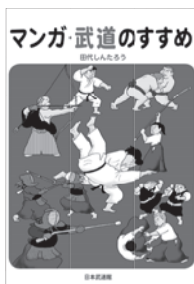
大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



少林寺拳法は4話を掲載！

